

平成28年度地震被害想定調査結果（概要版）

- 1 地震動による被害想定対象地震の設定について
- 2 地震動による被害想定項目と設定条件
- 3 地震動による被害想定結果①～空知管内で人的被害が最大となる地震
- 4 地震動による被害想定結果②～石狩管内で人的被害が最大となる地震
- 5 地震動による被害想定結果③～後志管内で人的被害が最大となる地震
- 6 地震動による被害想定結果④～胆振管内で人的被害が最大となる地震
- 7 地震動による被害想定結果⑤～日高管内で人的被害が最大となる地震
- 8 地震動による被害想定結果⑥～渡島管内で人的被害が最大となる地震
- 9 地震動による被害想定結果⑦～檜山管内で人的被害が最大となる地震
- 10 地震動による被害想定結果⑧～上川管内で人的被害が最大となる地震
- 11 地震動による被害想定結果⑨～留萌管内で人的被害が最大となる地震
- 12 地震動による被害想定結果⑩～宗谷管内で人的被害が最大となる地震
- 13 地震動による被害想定結果⑪～オホーツク管内で人的被害が最大となる地震
- 14 地震動による被害想定結果⑫～十勝管内で人的被害が最大となる地震
- 15 地震動による被害想定結果⑬～釧路管内で人的被害が最大となる地震
- 16 地震動による被害想定結果⑭～根室管内で人的被害が最大となる地震

北海道では、減災目標の検討に際し、地震・津波にともなう詳細な被害想定調査を平成24年度から振興局単位で進めており、各調査年度における算定結果を、順次、公表しているところです。

被害想定調査は、地震や津波による被害発生危険度が高い太平洋沿岸から実施しており、これまでに地震動による太平洋沿岸（平成26年3月、平成27年2月公表）、日本海沿岸（平成28年3月公表）及びオホーツク海沿岸（平成29年2月公表）の被害想定結果を公表しました。

本報告書は、平成28年度に実施した地震動による内陸部（空知、上川）の被害想定結果に加え、振興局単位を超える計算結果の整理等を行った全道版の地震動による被害想定を取りまとめたものです。

被害概要については、「冬期の早朝5時」において、各管内で人的被害が最大となる地震動による被害想定結果を整理したものです。

この想定結果は、中央防災会議（日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震や南海トラフ巨大地震）などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。

被害想定の詳細な結果については、別途危機対策課ホームページにおいて報告書を公表します。

平成30年2月

北海道

1 地震動による被害想定対象地震の設定について

被害想定対象地震の設定

北海道で想定される地震は、海域で発生する海溝型（プレート境界）地震と、主に陸域で発生する内陸型（地殻内）地震に大きく分けられます。

北海道防災会議では、最新の研究成果等に基づき、そのうち、地震被害想定を行うための対象地震として、31地震193断層モデルを設定しました（図1）。

（参考：「想定地震見直しに係る検討報告書」平成23年3月）

今回の被害想定の対象とした地震

北海道の地震被害想定調査では、31地震193断層モデルについて被害の概略計算の結果から、各管内に特に影響のある24地震54断層モデルを選定しました（図1及び表1）。

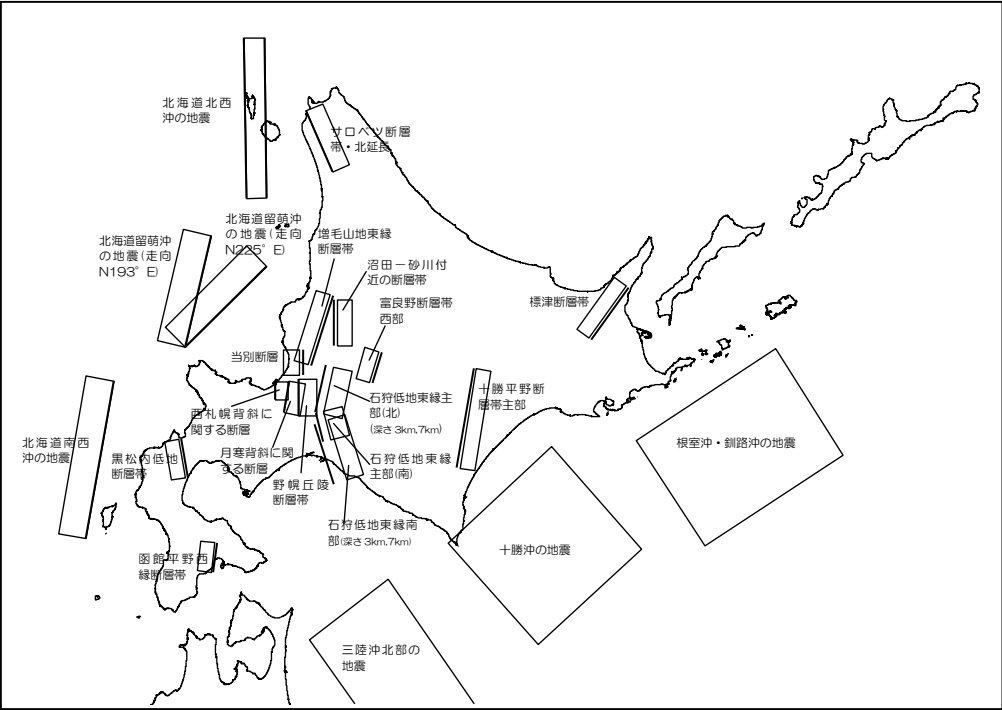


図1 被害想定の対象地震

表1 24地震54断層モデルの一覧

地震名	断層モデル
標津断層帯	30_1、45_5
十勝平野断層帯主部	45_2、45_5、30_3
富良野断層帯西部	45_3、30_2、30_5
増毛山地東縁断層帯	30_2、45_1、45_2、45_3、45_4、45_5
沼田一砂川付近の断層帯	45_1、45_2、45_3、45_4、30_3、30_4
当別断層帯	30_2、30_5
石狩低地東縁断層帯主部(北)(深さ7km)	45_1、30_1、30_5
石狩低地東縁断層帯主部(北)(深さ3km)	45_2、45_3、45_5、30_2
石狩低地東縁断層帯主部(南)(深さ3km)	45_2、45_5
石狩低地東縁断層帯南部(深さ7km)	30_5
石狩低地東縁断層帯南部(深さ3km)	30_2、30_3、30_5
黒松内低地断層帯	45_3、45_4、30_5
函館平野西縁断層帯	45_2、45_3
サロベツ断層帯(断層延長)	30_2、30_3、30_5
西札幌背斜に関連する断層	—
月寒背斜に関連する断層	—
野幌丘陵断層帯	45_1
根室沖・釧路沖の地震	—
十勝沖の地震の地震	—
三陸沖北部の地震	—
北海道北西沖の地震	No.2、No.5
北海道南西沖の地震	No.2
北海道留萌沖(走向N193°E)の地震	No.1
北海道留萌沖(走向N225°E)の地震	No.2

2 地震動による被害想定項目と設定条件

被害想定の設定条件

●雪による被害の影響や、屋内にいる時間帯などを考慮し、災害発生の季節・時間帯を以下の3つのパターンとして被害を想定しています。

- ①冬期の早朝5時・・・積雪の影響あり、住宅内に最も人がいる→人的被害が最大となる
- ②夏期の昼12時・・・積雪の影響なし、住宅内に最も人が少ない→建物・人的被害が最小となる
- ③冬期の夕方18時・・・積雪の影響あり、火気の使用が多い→建物被害が最大となる

表2 地震動による被害想定項目

被害想定項目	項目の概要
(1) 地震動	地表における最大震度
(2) 液状化危険度	液状化発生確率
(3) 急傾斜地崩壊危険度	急傾斜地における崩壊危険度の予測
(4) 建物被害	揺れ、液状化、急傾斜地崩壊による全壊・半壊棟数
(5) 火災被害	焼失棟数
(6) 人的被害	揺れ、急傾斜地崩壊、火災被害による死者数、重軽傷者数 建物倒壊やライフライン被害による避難者数
(7) ライフライン被害	上・下水道の被害箇所数等の割合、上水道の断水人口、下水道の機能支障人口、最大復旧日数（管内の作業員のみが対応した場合の日数）
(8) 交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合、 15m以上の橋梁の不通箇所数・通行支障箇所数の割合

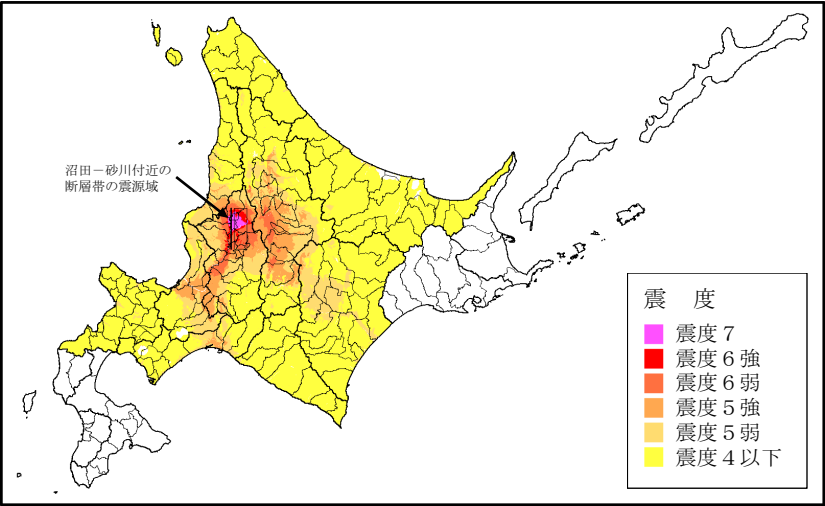
3 地震動による被害想定結果①～空知管内で人的被害が最大となる地震

■沼田－砂川付近の断層帯（モデル30_4）の地震（Mw6.9）※1

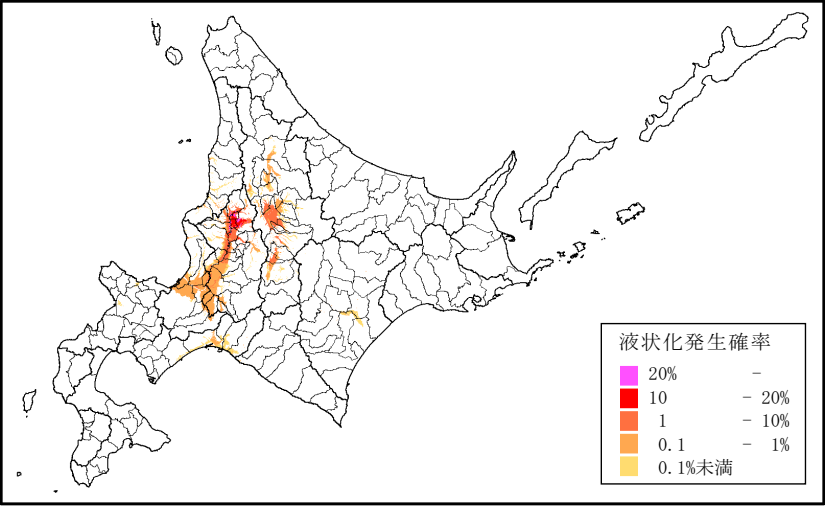
被害の概要（冬期の早朝5時） 〔北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〕

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	震度7	震度6弱	震度5強	震度5強	震度5弱	－	－	震度6強	震度6弱	震度5弱	震度5弱	震度6弱	－	－
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	8,499棟	8,371棟	4棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	－	－	120棟	1棟	0棟	0棟	1棟未満	－	－
	半壊棟数	8,774棟	7,112棟	160棟	1棟	2棟	1棟未満	－	－	1,486棟	12棟	0棟	0棟	1棟未満	－	－
火災被害	焼失棟数	35棟	29棟	1棟未満	0棟	1棟未満	0棟	－	－	6棟	1棟未満	0棟	0棟	0棟	－	－
〔建物総棟数〕		〔1,683,209棟〕	〔162,359棟〕	〔564,217棟〕	〔118,931棟〕	〔161,835棟〕	〔54,888棟〕	－	－	〔224,059棟〕	〔31,599棟〕	〔37,118棟〕	〔152,607棟〕	〔175,596棟〕	－	－
人的被害	死者数	370人	366人	1人未満	1人未満	1人未満	1人未満	－	－	3人	1人未満	0棟	0棟	1人未満	－	－
	重軽傷者数	1,098人	768人	40人	1人未満	1人未満	1人未満	－	－	286人	2人	0棟	0棟	1人未満	－	－
	避難者数	69,843人	37,930人	3,610人	3人	3人	1人未満	－	－	28,033人	263人	0棟	0棟	2人	－	－
〔総人口〕		〔4,680,870人〕	〔311,713人〕	〔2,360,832人〕	〔224,190人〕	〔413,968人〕	〔73,316人〕	－	－	〔521,087人〕	〔50,170人〕	〔68,153人〕	〔305,998人〕	〔351,443人〕	－	－
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	8.9km当り1箇所 〔総延長41,482km〕	1.4km当り1箇所 〔総延長5,690km〕	164.1km当り1箇所 〔総延長8,802km〕	※0箇所 〔総延長2,386km〕	※1箇所未満 〔総延長3,726km〕	※0箇所 〔総延長1,331km〕	－	－	10.5km当り1箇所 〔総延長5,139km〕	190.6km当り1箇所 〔総延長1,102km〕	※0箇所 〔総延長2,103km〕	※0箇所 〔総延長4,120km〕	※0箇所 〔総延長7,083km〕	－	－
	断水人口(1日総)	198,448人	85,043人	12,776人	0人	1人未満	0人	－	－	99,540人	1,089人	0人	0人	0人	－	－
	最大復旧日数	147日	147日	1日	0日	1日	0日	－	－	10日	3日	0日	0日	0日	－	－
	下水道被害延長の割合	1.36% 〔総延長21,818km〕	5.45% 〔総延長2,210km〕	0.84% 〔総延長7,377km〕	0.21% 〔総延長1,203km〕	0.60% 〔総延長2,900km〕	0.14% 〔総延長474km〕	－	－	3.21% 〔総延長2,554km〕	1.17% 〔総延長295km〕	0.00% 〔総延長459km〕	0.02% 〔総延長2,084km〕	0.34% 〔総延長2,263km〕	－	－
	機能支障人口	53,809人	15,068人	17,649人	408人	2,057人	80人	－	－	16,833人	548人	0人	49人	1,117人	－	－
	最大復旧日数	21日	21日	2日	1日	2日	1日	－	－	7日	5日	0日	1日	2日	－	－
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	33km当り1箇所 〔総延長11,042km〕	11.2km当り1箇所 〔総延長1,374km〕	17.8km当り1箇所 〔総延長1,340km〕	208.5km当り1箇所 〔総延長794km〕	43.2km当り1箇所 〔総延長1,181km〕	438km当り1箇所 〔総延長497km〕	－	－	24km当り1箇所 〔総延長1,586km〕	25.4km当り1箇所 〔総延長380km〕	※1箇所未満 〔総延長714km〕	870.3km当り1箇所 〔総延長1,500km〕	79.3km当り1箇所 〔総延長1,675km〕	－	－
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.38% 〔総数10,944箇所〕	2.29% 〔総数1,555箇所〕	0.00% 〔総数1,218箇所〕	0.00% 〔総数673箇所〕	0.00% 〔総数809箇所〕	0.00% 〔総数494箇所〕	－	－	0.32% 〔総数1,938箇所〕	0.02% 〔総数547箇所〕	0.00% 〔総数570箇所〕	0.00% 〔総数1,374箇所〕	0.00% 〔総数1,766箇所〕	－	－

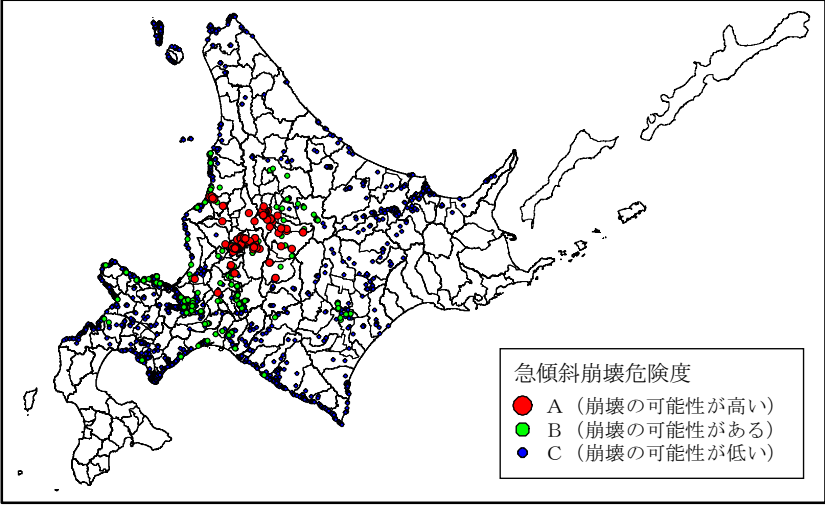
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“－”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

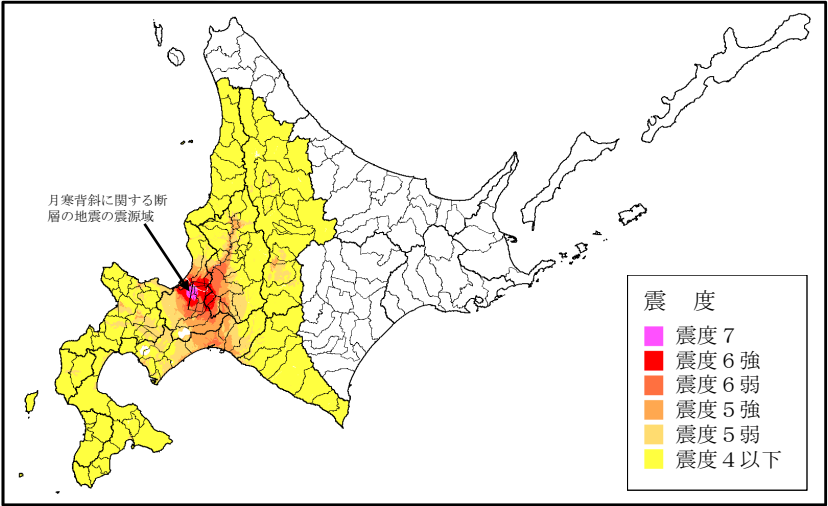
3 地震動による被害想定結果②～石狩管内で人的被害が最大となる地震

■月寒背斜に関する断層の地震（Mw6.76）※1

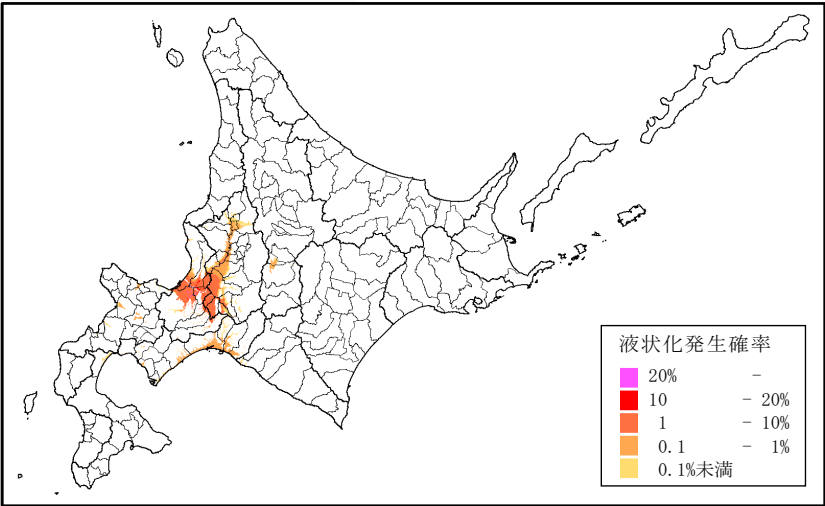
被害の概要（冬期の早朝5時）〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	震度6強	震度7	震度6弱	震度6弱	震度5強	震度5弱	震度5弱	震度5強	震度5弱	—	—	—	—	—
液化化危険度		下図(液化化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	22,982棟	334棟	22,634棟	7棟	7棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	—	—	—	—	—
	半壊棟数	43,968棟	1,709棟	42,160棟	26棟	73棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	—	—	—	—	—
火災被害	焼失棟数	537棟	1棟	536棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	0棟	0棟	1棟未満	0棟	—	—	—	—	—
[建物総棟数]		[1,535,258棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	[118,931棟]	[161,835棟]	[54,888棟]	[188,265棟]	[29,105棟]	[224,059棟]	[31,599棟]	—	—	—	—	—
人的被害	死者数	985人	4人	979人	1人	1人未満	1人未満	0棟	1人未満	1人未満	0棟	—	—	—	—	—
	重軽傷者数	18,806人	229人	18,543人	9人	25人	1人未満	0棟	1人未満	1人未満	0棟	—	—	—	—	—
	避難者数	488,501人	15,513人	470,266人	314人	2,403人	2人	1人未満	1人未満	3人	1人未満	—	—	—	—	—
[総人口]		[4,420,396人]	[311,713人]	[2,360,832人]	[224,190人]	[413,968人]	[73,316人]	[424,808人]	[40,312人]	[521,087人]	[50,170人]	—	—	—	—	—
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	7.3km当り1箇所 [総延長31,996km]	8.3km当り1箇所 [総延長5,690km]	2.4km当り1箇所 [総延長8,802km]	457.2km当り1箇所 [総延長2,386km]	66.7km当り1箇所 [総延長3,726km]	※1箇所未満 [総延長1,331km]	※0箇所 [総延長2,864km]	※0箇所 [総延長956km]	※1箇所未満 [総延長5,139km]	※0箇所 [総延長1,102km]	—	—	—	—	—
	断水人口(1日後)	1,076,623人	44,027人	1,023,227人	523人	8,825人	7人	0人	0人	16人	0人	—	—	—	—	—
	最大復旧日数	39日	39日	24日	1日	3日	1日	0日	0日	1日	0日	—	—	—	—	—
	下水道被害延長の割合	3.06% [総延長19,566km]	2.40% [総延長2,210km]	6.55% [総延長7,377km]	0.79% [総延長1,203km]	1.63% [総延長2,900km]	0.43% [総延長474km]	0.04% [総延長2,336km]	0.13% [総延長217km]	0.07% [総延長2,554km]	0.27% [総延長295km]	—	—	—	—	—
	機能支障人口	165,484人	7,368人	149,883人	1,575人	5,714人	242人	175人	36人	358人	133人	—	—	—	—	—
	最大復旧日数	9日	9日	9日	3日	5日	2日	1日	1日	1日	2日	—	—	—	—	—
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	26.8km当り1箇所 [総延長8,530km]	17.7km当り1箇所 [総延長1,374km]	9km当り1箇所 [総延長1,340km]	43.5km当り1箇所 [総延長794km]	19.7km当り1箇所 [総延長1,181km]	142.6km当り1箇所 [総延長497km]	204.2km当り1箇所 [総延長1,030km]	※1箇所未満 [総延長347km]	503.8km当り1箇所 [総延長1,586km]	208.9km当り1箇所 [総延長380km]	—	—	—	—	—
	15m以上の橋梁の不 通・通行支障箇所の割合	0.91% [総数8,355箇所]	0.56% [総数1,555箇所]	5.50% [総数1,218箇所]	0.01% [総数673箇所]	0.03% [総数809箇所]	0.00% [総数494箇所]	0.00% [総数737箇所]	0.00% [総数384箇所]	0.00% [総数1,938箇所]	0.00% [総数547箇所]	—	—	—	—	—

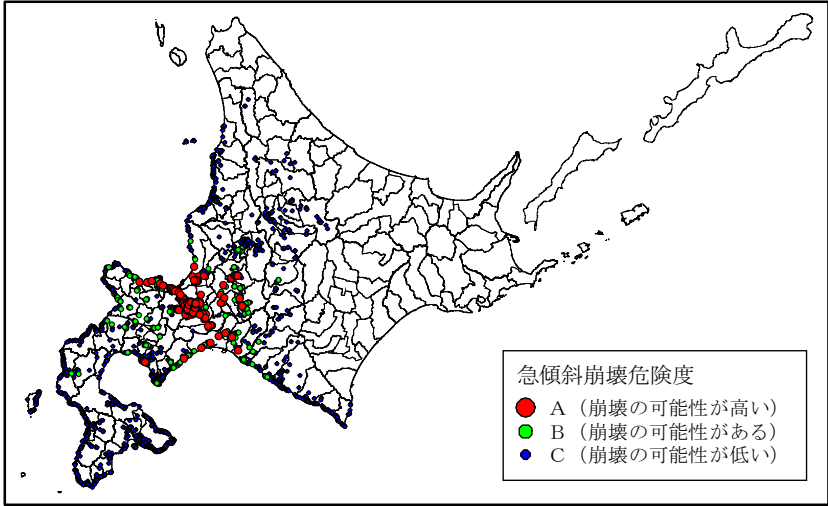
震度分布



液化化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

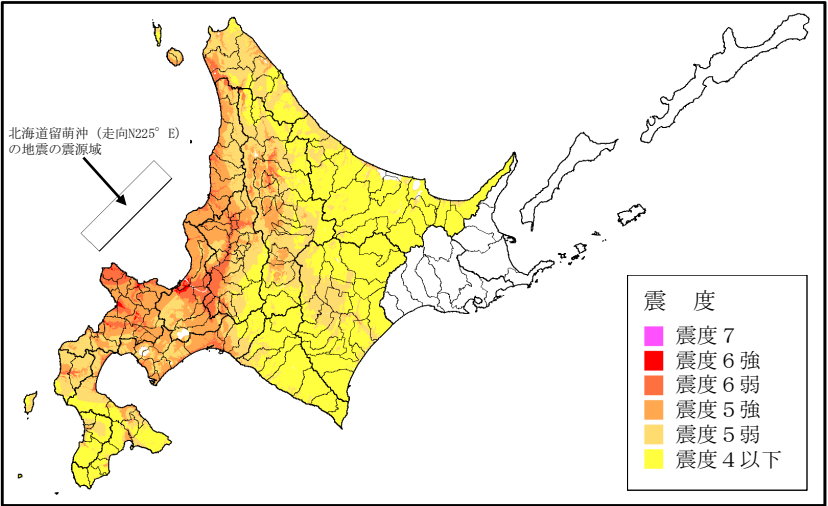
3 地震動による被害想定結果③～後志管内で人的被害が最大となる地震

■北海道留萌沖（走向N225° E、モデルNo.2）の地震（Mw7.8）※1

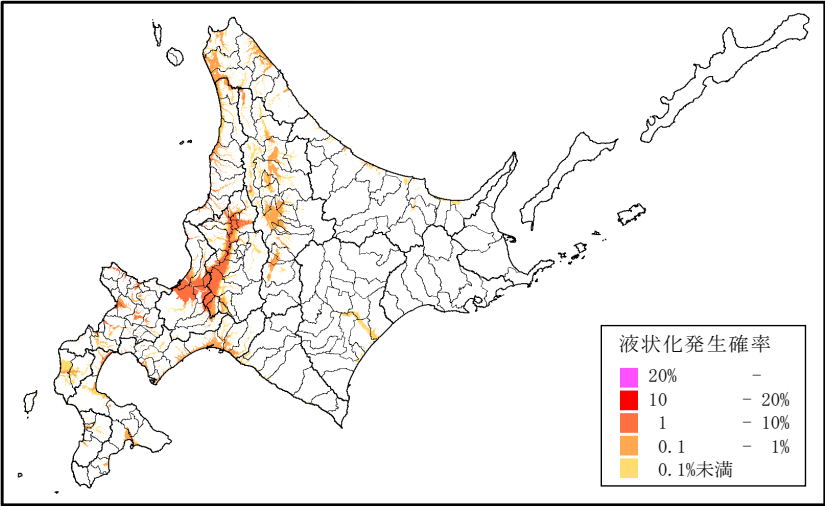
被害の概要（冬期の早朝5時） 〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7 (最大)	震度6強	震度6強	震度7	震度6弱	震度5強	震度6弱	震度6弱	震度6弱	震度6強	震度6弱	震度5強	震度5強	—	—
液化化危険度		下図(液化化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	2,798棟	206棟	1,560棟	819棟	43棟	1棟	15棟	7棟	13棟	131棟	1棟	1棟未満	1棟未満	—	—
	半壊棟数	16,595棟	1,841棟	9,588棟	3,617棟	301棟	3棟	110棟	52棟	226棟	836棟	18棟	2棟	1棟	—	—
火災被害	焼失棟数	55棟	1棟未満	49棟	4棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	—	—
[建物総棟数]		[1,900,579棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	[118,931棟]	[161,835棟]	[54,888棟]	[188,265棟]	[29,105棟]	[224,059棟]	[31,599棟]	[37,118棟]	[152,607棟]	[175,596棟]	—	—
人的被害	死者数	95人	3人	41人	36人	5人	1人未満	1人	1人未満	1人未満	7人	1人未満	1人未満	1人未満	—	—
	重軽傷者数	3,993人	218人	2,853人	623人	98人	1人	19人	9人	35人	133人	3人	1人未満	1人未満	—	—
	避難者数	196,875人	20,982人	133,755人	20,700人	8,247人	13人	1,677人	745人	3,838人	6,571人	328人	15人	3人	—	—
[総人口]		[5,145,990人]	[311,713人]	[2,360,832人]	[224,190人]	[413,968人]	[73,316人]	[424,808人]	[40,312人]	[521,087人]	[50,170人]	[68,153人]	[305,998人]	[351,443人]	—	—
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	13.9km当り1箇所 [総延長45,302km]	6.5km当り1箇所 [総延長5,690km]	8.3km当り1箇所 [総延長8,802km]	3.7km当り1箇所 [総延長2,386km]	20.6km当り1箇所 [総延長3,726km]	※1箇所未満 [総延長1,331km]	58.4km当り1箇所 [総延長2,864km]	19.1km当り1箇所 [総延長956km]	46.4km当り1箇所 [総延長5,139km]	4.2km当り1箇所 [総延長1,102km]	61.3km当り1箇所 [総延長2,103km]	※1箇所未満 [総延長4,120km]	※1箇所未満 [総延長7,083km]	—	—
	断水人口 (1日総)	583,406人	63,393人	384,422人	60,190人	30,554人	55人	5,361人	3,536人	13,276人	21,235人	1,327人	56人	1人未満	—	—
	最大復旧日数	116日	44日	7日	45日	7日	1日	4日	33日	4日	116日	9日	1日	1日	—	—
	下水道被害延長の割合	2.23% [総延長24,371km]	3.16% [総延長2,210km]	2.88% [総延長7,377km]	4.26% [総延長1,203km]	2.80% [総延長2,900km]	0.83% [総延長474km]	1.29% [総延長2,336km]	2.28% [総延長217km]	2.03% [総延長2,554km]	4.86% [総延長295km]	1.41% [総延長459km]	0.30% [総延長2,084km]	0.51% [総延長2,263km]	—	—
	機能支障人口	110,145人	9,113人	61,057人	8,133人	10,924人	468人	4,715人	643人	9,721人	2,097人	840人	785人	1,650人	—	—
	最大復旧日数	19日	12日	4日	12日	8日	3日	4日	7日	5日	19日	5日	1日	2日	—	—
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	18.4km当り1箇所 [総延長12,419km]	12.2km当り1箇所 [総延長1,374km]	10.5km当り1箇所 [総延長1,340km]	12.5km当り1箇所 [総延長794km]	13.7km当り1箇所 [総延長1,181km]	50km当り1箇所 [総延長497km]	20.4km当り1箇所 [総延長1,030km]	20.1km当り1箇所 [総延長347km]	19.3km当り1箇所 [総延長1,586km]	10.1km当り1箇所 [総延長380km]	19.2km当り1箇所 [総延長714km]	78.8km当り1箇所 [総延長1,500km]	58.2km当り1箇所 [総延長1,675km]	—	—
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.44% [総数12,065箇所]	0.69% [総数1,555箇所]	1.47% [総数1,218箇所]	1.85% [総数673箇所]	0.27% [総数809箇所]	0.00% [総数494箇所]	0.04% [総数737箇所]	0.33% [総数384箇所]	0.21% [総数1,938箇所]	0.63% [総数547箇所]	0.08% [総数570箇所]	0.00% [総数1,374箇所]	0.00% [総数1,766箇所]	—	—

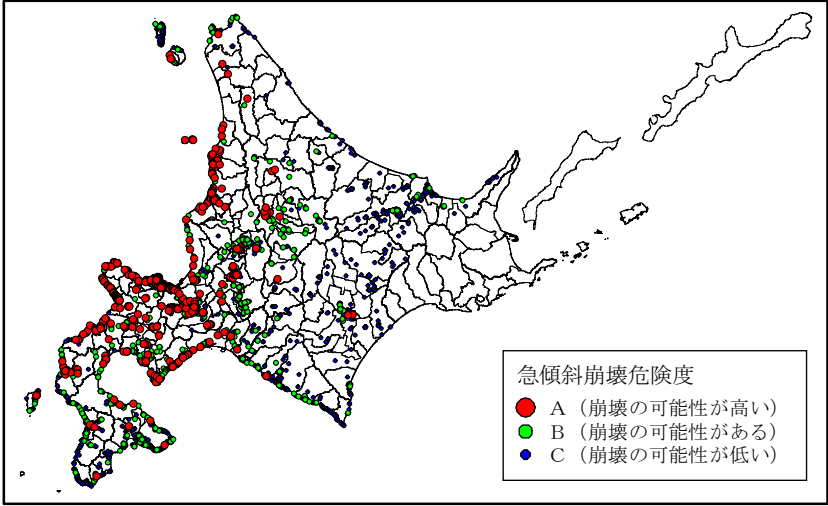
震度分布



液化化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

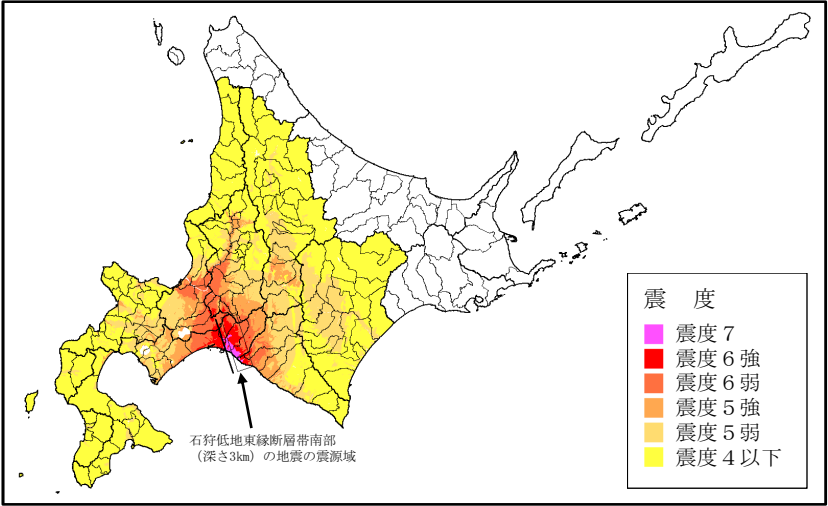
3 地震動による被害想定結果④～胆振管内で人的被害が最大となる地震

■石狩低地東縁断層帯南部（断層上端深さ3km、モデル30_3）の地震（Mw7.16）※1

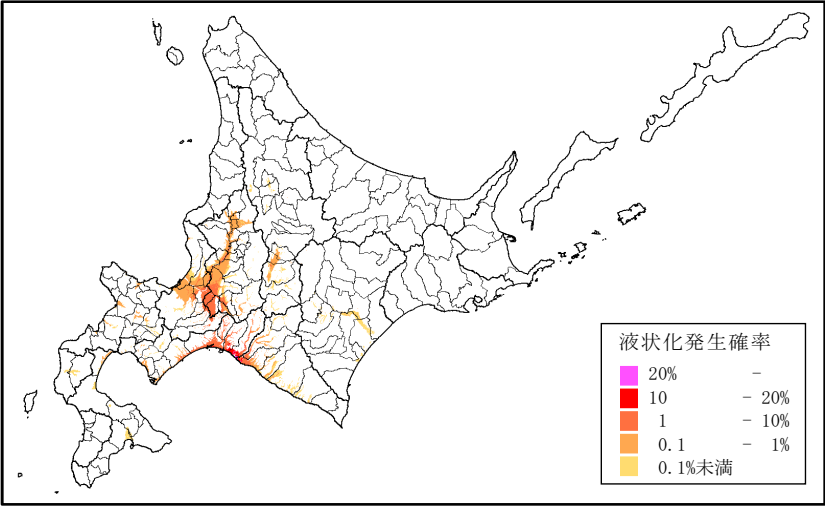
被害の概要（冬期の早朝5時）〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7 (最大)	震度6強	震度6強	震度5強	震度7	震度7	震度5強	震度5弱	震度6弱	震度5弱	—	—	震度5強	—	—
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	2,500棟	164棟	264棟	5棟	1,711棟	354棟	1棟未満	1棟未満	1棟	1棟未満	—	—	1棟未満	—	—
	半壊棟数	7,843棟	1,170棟	2,930棟	23棟	2,906棟	794棟	1棟	1棟未満	18棟	1棟未満	—	—	1棟	—	—
火災被害	焼失棟数	14棟	1棟未満	2棟	1棟未満	11棟	1棟未満	1棟未満	0棟	1棟未満	0棟	—	—	1棟未満	—	—
[建物総棟数]		[1,710,854棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	[118,931棟]	[161,835棟]	[54,888棟]	[188,265棟]	[29,105棟]	[224,059棟]	[31,599棟]	—	—	[175,596棟]	—	—
人的被害	死者数	75人	3人	6人	1人未満	58人	6人	1人未満	1人未満	1人未満	1人未満	—	—	1人未満	—	—
	重軽傷者数	1,853人	159人	841人	8人	706人	134人	1人未満	1人未満	4人	1人未満	—	—	1人未満	—	—
	避難者数	115,613人	12,853人	65,331人	225人	31,922人	4,614人	5人	1人未満	660人	1人未満	—	—	2人	—	—
[総人口]		[4,771,839人]	[311,713人]	[2,360,832人]	[224,190人]	[413,968人]	[73,316人]	[424,808人]	[40,312人]	[521,087人]	[50,170人]	—	—	[351,443人]	—	—
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	10.5km当り1箇所 [総延長39,079km]	9.8km当り1箇所 [総延長5,690km]	12.8km当り1箇所 [総延長8,802km]	452.7km当り1箇所 [総延長2,386km]	1.9km当り1箇所 [総延長3,726km]	2.7km当り1箇所 [総延長1,331km]	※1箇所未満 [総延長2,864km]	※0箇所 [総延長956km]	229.5km当り1箇所 [総延長5,139km]	※0箇所 [総延長1,102km]	—	—	※1箇所未満 [総延長7,083km]	—	—
	断水人口 (1日総)	362,665人	39,425人	212,468人	999人	92,047人	14,898人	11人	0人	2,817人	0人	—	—	1人未満	—	—
	最大復旧日数	84日	35日	5日	1日	62日	84日	1日	0日	1日	0日	—	—	1日	—	—
	下水道被害延長の割合	2.03% [総延長21,829km]	2.30% [総延長2,210km]	2.47% [総延長7,377km]	0.84% [総延長1,203km]	4.89% [総延長2,900km]	4.80% [総延長474km]	0.19% [総延長2,336km]	0.35% [総延長217km]	0.71% [総延長2,554km]	0.31% [総延長295km]	—	—	0.52% [総延長2,263km]	—	—
	機能支障人口	84,842人	6,867人	50,470人	1,631人	17,123人	2,544人	621人	97人	3,653人	156人	—	—	1,679人	—	—
	最大復旧日数	17日	9日	4日	3日	13日	17日	1日	1日	2日	2日	—	—	2日	—	—
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	23km当り1箇所 [総延長10,205km]	14.9km当り1箇所 [総延長1,374km]	11.2km当り1箇所 [総延長1,340km]	36.9km当り1箇所 [総延長794km]	11km当り1箇所 [総延長1,181km]	16.7km当り1箇所 [総延長497km]	74.1km当り1箇所 [総延長1,030km]	179.6km当り1箇所 [総延長347km]	63.7km当り1箇所 [総延長1,586km]	125.5km当り1箇所 [総延長380km]	—	—	57.6km当り1箇所 [総延長1,675km]	—	—
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.42% [総数10,121箇所]	0.51% [総数1,555箇所]	0.91% [総数1,218箇所]	0.00% [総数673箇所]	2.48% [総数809箇所]	0.64% [総数494箇所]	0.00% [総数737箇所]	0.00% [総数384箇所]	0.00% [総数1,938箇所]	0.00% [総数547箇所]	—	—	0.00% [総数1,766箇所]	—	—

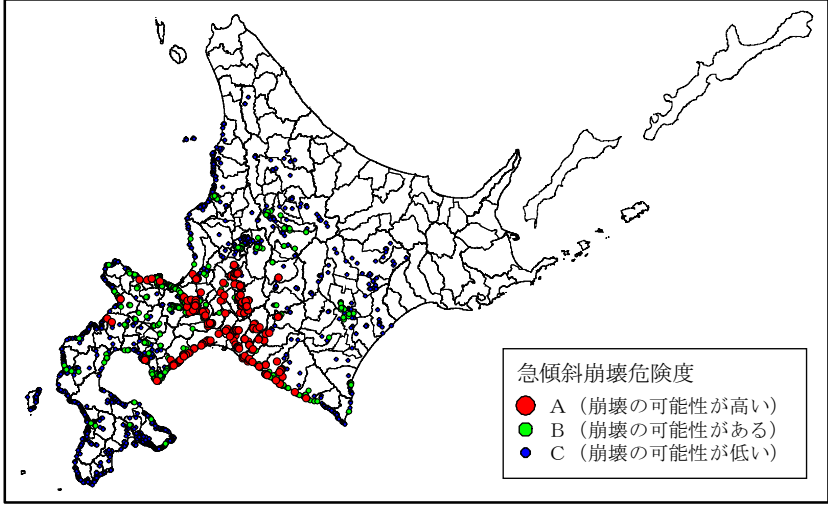
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

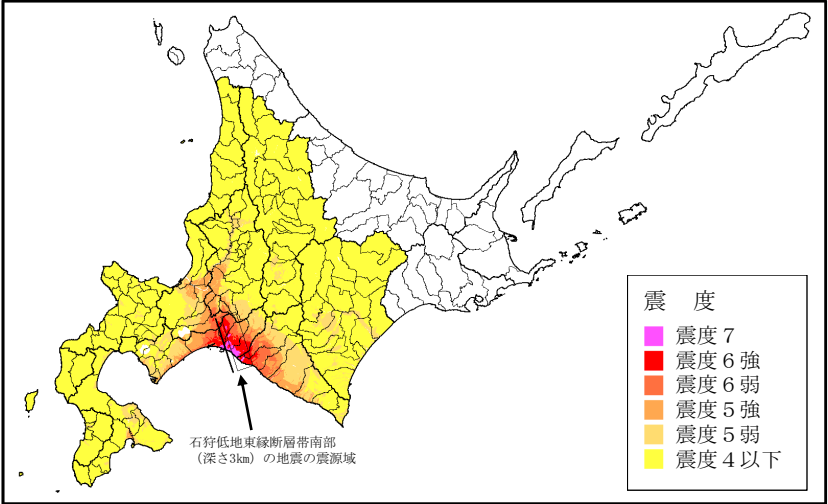
3 地震動による被害想定結果⑤～日高管内で人的被害が最大となる地震

■石狩低地東縁断層帯南部（断層上端深さ3km、モデル30_2）の地震（ Mw7.16 ）※1

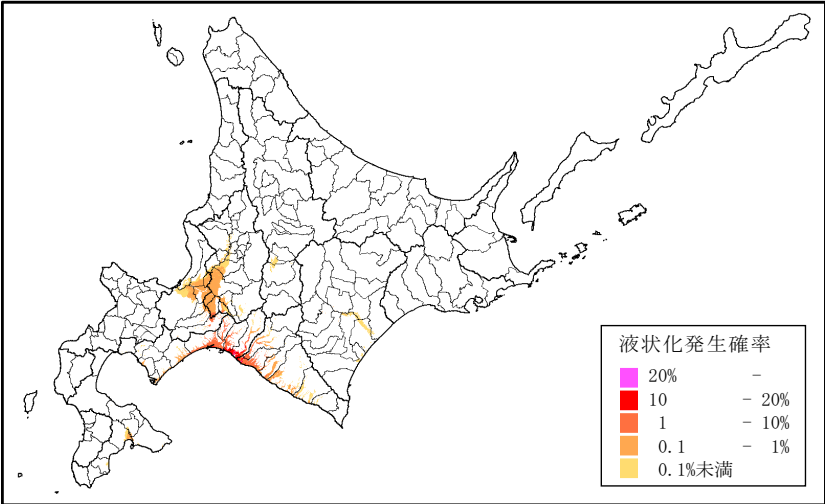
被害の概要（冬期の早朝5時） 〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7 (最大)	震度6弱	震度6強	震度5弱	震度7	震度7	震度5強	震度5弱	震度5弱	震度5弱	—	—	震度5弱	—	—
液化化危険度		下図(液化化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	1,666棟	7棟	9棟	1棟未満	1,161棟	489棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	0棟	—	—	1棟未満	—	—
	半壊棟数	3,504棟	76棟	108棟	1棟未満	2,156棟	1,161棟	2棟	1棟未満	1棟未満	0棟	—	—	1棟未満	—	—
火災被害	焼失棟数	6棟	1棟未満	1棟未満	0棟	5棟	1棟	1棟未満	0棟	0棟	0棟	—	—	0棟	—	—
[建物総棟数]		[1,710,854棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	[118,931棟]	[161,835棟]	[54,888棟]	[188,265棟]	[29,105棟]	[224,059棟]	[31,599棟]	—	—	[175,596棟]	—	—
人的被害	死者数	36人	1人未満	1人未満	1人未満	27人	9人	1人未満	1人未満	1人未満	0棟	—	—	1人未満	—	—
	重軽傷者数	726人	9人	39人	1人未満	478人	199人	1人未満	1人未満	1人未満	0棟	—	—	1人未満	—	—
	避難者数	36,531人	987人	5,030人	1人未満	23,667人	6,835人	12人	1人未満	1人未満	0棟	—	—	1人未満	—	—
[総人口]		[4,771,839人]	[311,713人]	[2,360,832人]	[224,190人]	[413,968人]	[73,316人]	[424,808人]	[40,312人]	[521,087人]	[50,170人]	—	—	[351,443人]	—	—
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	16.6km当り1箇所 [総延長39,079km]	98.8km当り1箇所 [総延長5,690km]	114.4km当り1箇所 [総延長8,802km]	※0箇所 [総延長2,386km]	2.4km当り1箇所 [総延長3,726km]	1.9km当り1箇所 [総延長1,331km]	※1箇所未満 [総延長2,864km]	※0箇所 [総延長956km]	※0箇所 [総延長5,139km]	※0箇所 [総延長1,102km]	—	—	※0箇所 [総延長7,083km]	—	—
	断水人口 (1日総)	107,014人	2,928人	13,154人	0人	68,881人	22,014人	37人	0人	0人	0人	—	—	0人	—	—
	最大復旧日数	121日	4日	1日	0日	50日	121日	1日	0日	0日	0日	—	—	0日	—	—
	下水道被害延長の割合	1.17% [総延長1,829km]	0.74% [総延長2,210km]	0.92% [総延長7,377km]	0.08% [総延長1,203km]	4.11% [総延長2,900km]	6.31% [総延長474km]	0.70% [総延長2,336km]	0.12% [総延長217km]	0.04% [総延長2,554km]	0.00% [総延長295km]	—	—	0.16% [総延長2,263km]	—	—
	機能支障人口	40,810人	2,218人	17,506人	190人	14,116人	3,491人	2,572人	29人	212人	0人	—	—	474人	—	—
	最大復旧日数	22日	3日	2日	1日	11日	22日	2日	1日	1日	0日	—	—	1日	—	—
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	36.6km当り1箇所 [総延長10,205km]	31.3km当り1箇所 [総延長1,374km]	19km当り1箇所 [総延長1,340km]	390km当り1箇所 [総延長794km]	12.4km当り1箇所 [総延長1,181km]	14km当り1箇所 [総延長497km]	55.7km当り1箇所 [総延長1,030km]	※1箇所未満 [総延長347km]	919.1km当り1箇所 [総延長1,586km]	※0箇所 [総延長380km]	—	—	156.7km当り1箇所 [総延長1,675km]	—	—
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.24% [総数10,121箇所]	0.03% [総数1,555箇所]	0.06% [総数1,218箇所]	0.00% [総数673箇所]	1.97% [総数809箇所]	1.41% [総数494箇所]	0.00% [総数737箇所]	0.00% [総数384箇所]	0.00% [総数1,938箇所]	0.00% [総数547箇所]	—	—	0.00% [総数1,766箇所]	—	—

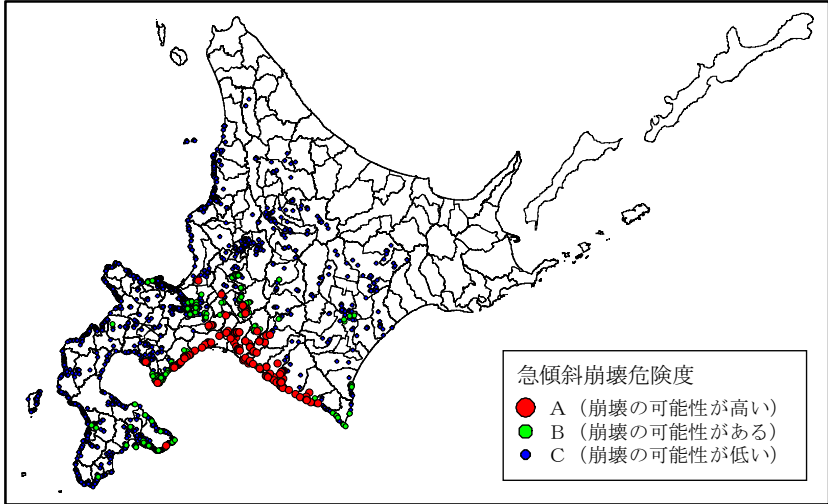
震度分布



液化化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

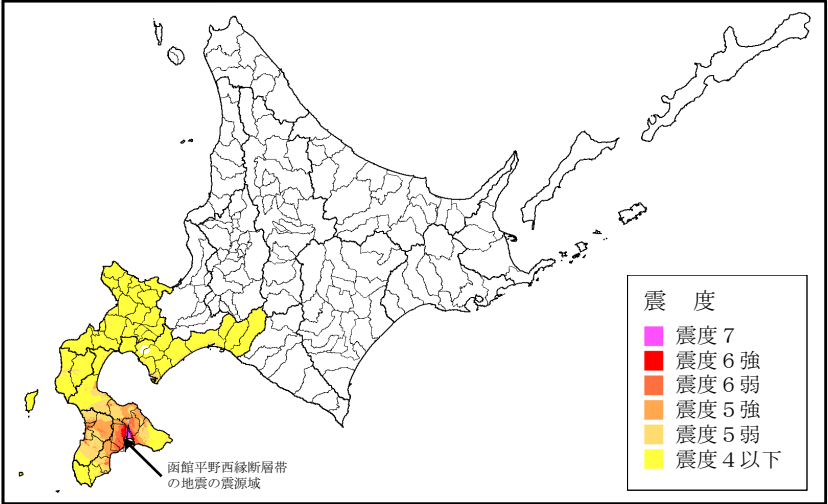
3 地震動による被害想定結果⑥～渡島管内で人的被害が最大となる地震

■函館平野西縁断層帯（モデル45_3）の地震（Mw6.6）※1

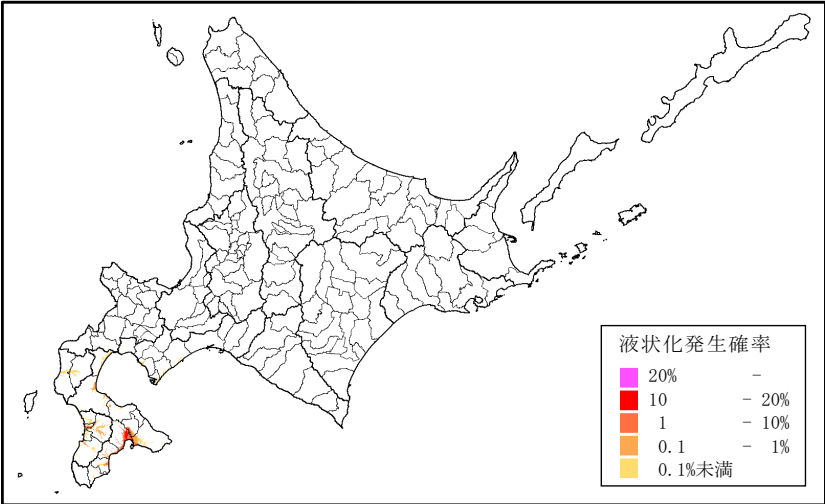
被害の概要（冬期の早朝5時） 〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	—	—	震度5弱	震度5強	—	震度7	震度6弱	—	—	—	—	—	—	—
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	1,843棟	—	—	1棟未満	1棟未満	—	1,835棟	8棟	—	—	—	—	—	—	—
	半壊棟数	3,396棟	—	—	1棟未満	1棟未満	—	3,364棟	31棟	—	—	—	—	—	—	—
火災被害	焼失棟数	28棟	—	—	0棟	1棟未満	—	28棟	1棟未満	—	—	—	—	—	—	—
[建物総棟数]		[498,136棟]	—	—	[118,931棟]	[161,835棟]	—	[188,265棟]	[29,105棟]	—	—	—	—	—	—	—
人的被害	死者数	36人	—	—	1人未満	1人未満	—	35人	1人	—	—	—	—	—	—	—
	重軽傷者数	645人	—	—	1人未満	1人未満	—	634人	11人	—	—	—	—	—	—	—
	避難者数	31,214人	—	—	1人未満	2人	—	30,186人	1,026人	—	—	—	—	—	—	—
[総人口]		[1,103,278人]	—	—	[224,190人]	[413,968人]	—	[424,808人]	[40,312人]	—	—	—	—	—	—	—
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	11.4km当り1箇所 [総延長9,932km]	—	—	※0箇所 [総延長2,386km]	※1箇所未満 [総延長3,726km]	—	3.4km当り1箇所 [総延長2,864km]	23.1km当り1箇所 [総延長956km]	—	—	—	—	—	—	—
	断水人口(1日総)	85,977人	—	—	0人	1人未満	—	82,389人	3,588人	—	—	—	—	—	—	—
	最大復旧日数	36日	—	—	0日	1日	—	36日	16日	—	—	—	—	—	—	—
	下水道被害延長の割合	2.17% [総延長6,657km]	—	—	0.00% [総延長1,203km]	0.46% [総延長2,900km]	—	5.46% [総延長2,336km]	1.77% [総延長217km]	—	—	—	—	—	—	—
	機能支障人口	23,283人	—	—	0人	2,023人	—	20,786人	475人	—	—	—	—	—	—	—
	最大復旧日数	16日	—	—	0日	2日	—	16日	5日	—	—	—	—	—	—	—
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	36.9km当り1箇所 [総延長3,353km]	—	—	※1箇所未満 [総延長794km]	111.5km当り1箇所 [総延長1,181km]	—	15.6km当り1箇所 [総延長1,030km]	24.6km当り1箇所 [総延長347km]	—	—	—	—	—	—	—
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.47% [総数2,603箇所]	—	—	0.00% [総数673箇所]	0.00% [総数809箇所]	—	1.56% [総数737箇所]	0.22% [総数384箇所]	—	—	—	—	—	—	—

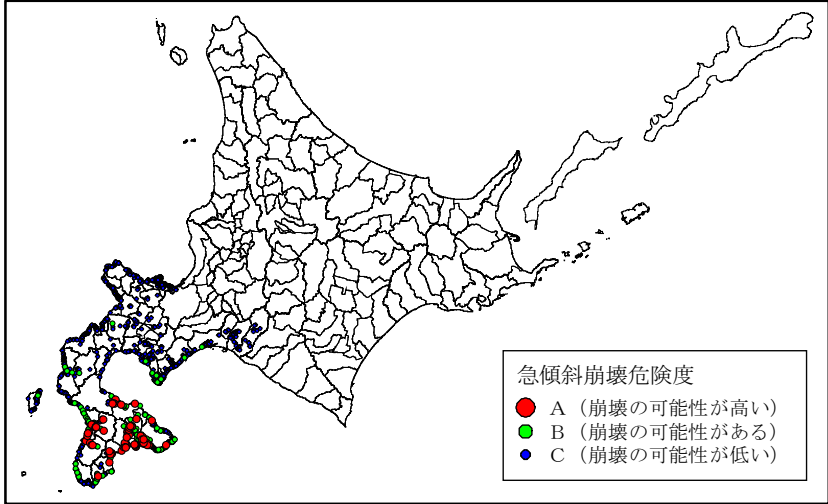
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

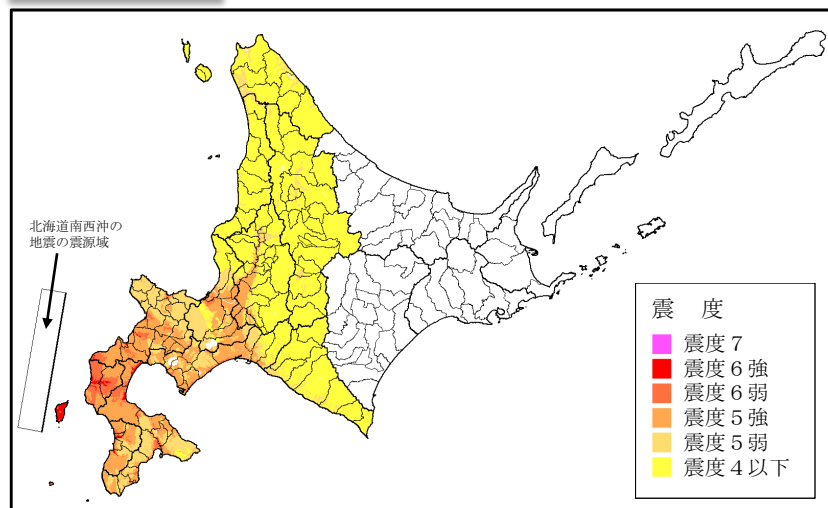
3 地震動による被害想定結果⑦～檜山管内で人的被害が最大となる地震

■北海道南西沖（モデルNo.2）の地震（Mw8.0）※1

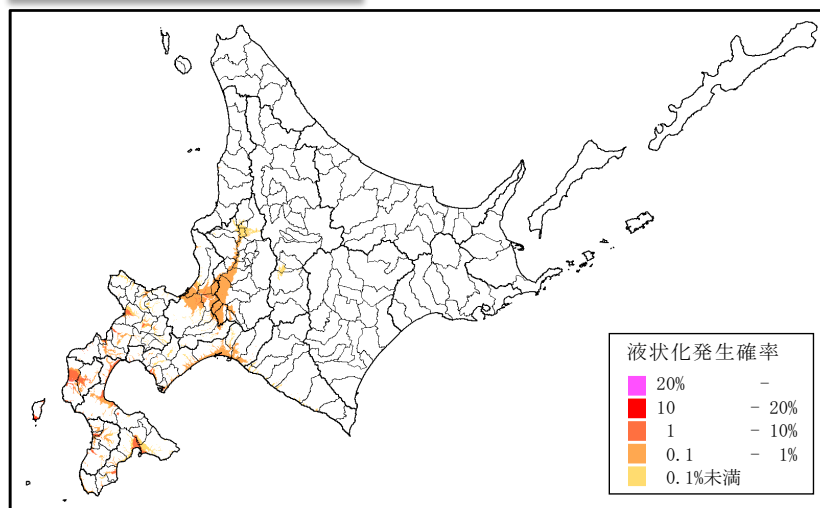
被害の概要（冬期の早朝5時） 〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	震度5強	震度6弱	震度6強	震度6弱	震度5強	震度6強	震度7	震度5弱	震度5弱	震度5弱	－	－	－	－
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	1,120棟	2棟	33棟	69棟	67棟	1棟	181棟	767棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	－	－	－	－
	半壊棟数	4,364棟	54棟	710棟	497棟	368棟	3棟	918棟	1,815棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	－	－	－	－
火災被害	焼失棟数	3棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	2棟	0棟	0棟	0棟	－	－	－	－
[建物総棟数]		[1,572,376棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	[118,931棟]	[161,835棟]	[54,888棟]	[188,265棟]	[29,105棟]	[224,059棟]	[31,599棟]	[37,118棟]	－	－	－	－
人的被害	死者数	47人	1人未満	2人	7人	8人	1人未満	12人	18人	0棟	1人未満	1人未満	－	－	－	－
	重軽傷者数	899人	6人	197人	99人	121人	1人	184人	291人	0棟	1人未満	1人未満	－	－	－	－
	避難者数	51,070人	986人	14,903人	5,883人	8,476人	11人	12,710人	8,101人	1人未満	1人未満	1人未満	－	－	－	－
[総人口]		[4,488,549人]	[311,713人]	[2,360,832人]	[224,190人]	[413,968人]	[73,316人]	[424,808人]	[40,312人]	[521,087人]	[50,170人]	[68,153人]	－	－	－	－
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	21.2km当り1箇所 [総延長34,099km]	130.2km当り1箇所 [総延長5,690km]	68.8km当り1箇所 [総延長8,802km]	13km当り1箇所 [総延長2,386km]	21.5km当り1箇所 [総延長3,726km]	※1箇所未満 [総延長1,331km]	8.6km当り1箇所 [総延長2,864km]	1.3km当り1箇所 [総延長956km]	※0箇所 [総延長5,139km]	※0箇所 [総延長1,102km]	※0箇所 [総延長2,103km]	－	－	－	－
	断水人口(1日後)	172,118人	3,369人	54,502人	21,160人	31,276人	38人	38,348人	23,424人	0人	0人	0人	－	－	－	－
	最大復旧日数	494日	3日	1日	12日	6日	1日	18日	494日	0日	0日	0日	－	－	－	－
	下水道被害延長の割合	1.59% [総延長20,025km]	0.94% [総延長2,210km]	1.46% [総延長7,377km]	1.89% [総延長1,203km]	2.54% [総延長2,900km]	0.77% [総延長474km]	2.88% [総延長2,336km]	7.93% [総延長217km]	0.10% [総延長2,554km]	0.52% [総延長295km]	0.17% [総延長459km]	－	－	－	－
	機能支障人口	61,732人	2,797人	30,757人	3,500人	10,645人	465人	10,627人	2,183人	404人	231人	124人	－	－	－	－
	最大復旧日数	23日	4日	2日	5日	7日	3日	8日	23日	1日	2日	1日	－	－	－	－
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	22.3km当り1箇所 [総延長9,244km]	28.5km当り1箇所 [総延長1,374km]	14.6km当り1箇所 [総延長1,340km]	15.2km当り1箇所 [総延長794km]	14.9km当り1箇所 [総延長1,181km]	57.9km当り1箇所 [総延長497km]	12.8km当り1箇所 [総延長1,030km]	9.7km当り1箇所 [総延長347km]	283.9km当り1箇所 [総延長1,586km]	57.6km当り1箇所 [総延長380km]	132.7km当り1箇所 [総延長714km]	－	－	－	－
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.28% [総数8,925箇所]	0.00% [総数1,555箇所]	0.09% [総数1,218箇所]	0.58% [総数673箇所]	0.24% [総数809箇所]	0.00% [総数494箇所]	0.63% [総数737箇所]	3.58% [総数384箇所]	0.00% [総数1,938箇所]	0.00% [総数547箇所]	0.00% [総数570箇所]	－	－	－	－

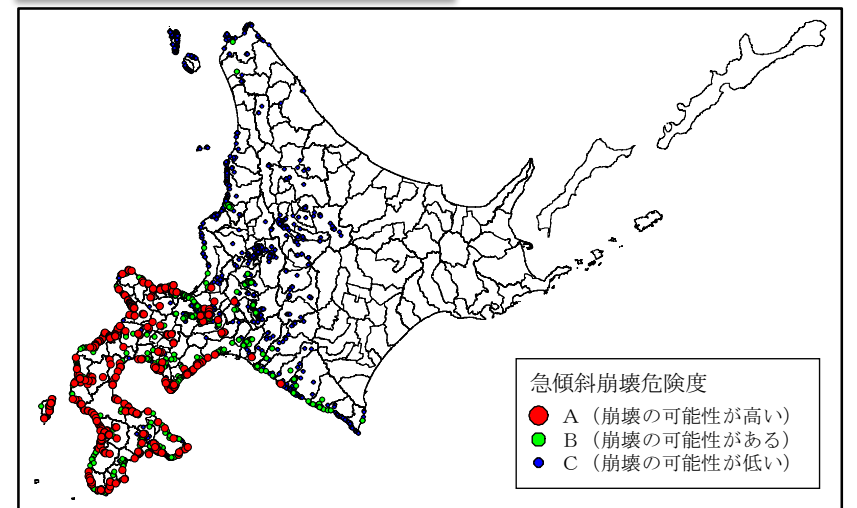
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。

※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。

※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“－”）としています。

※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。

※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

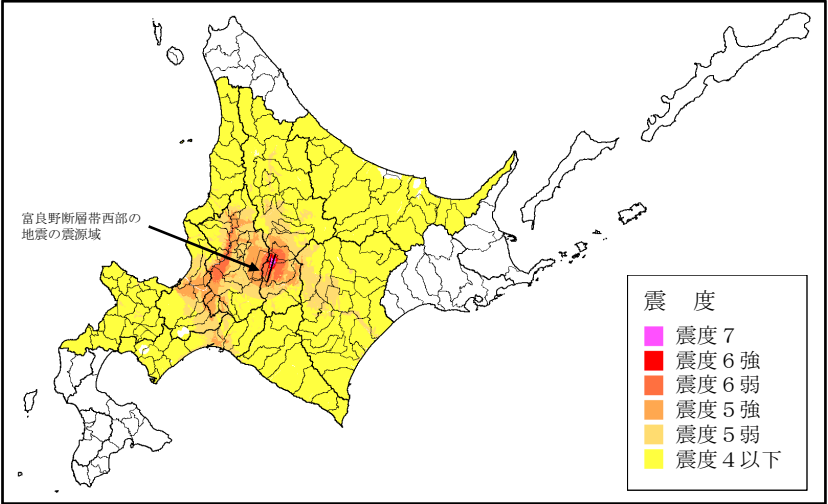
3 地震動による被害想定結果⑧～上川管内で人的被害が最大となる地震

■富良野断層帯西部（モデル45_3）の地震（Mw6.7）※1

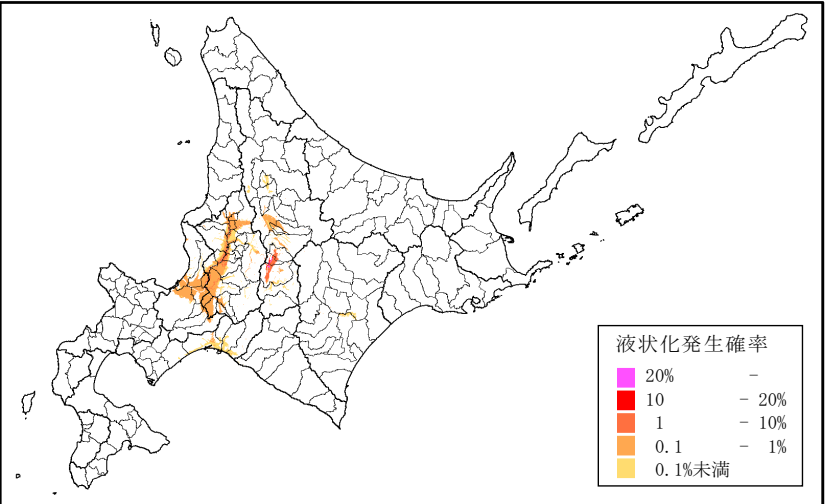
被害の概要（冬期の早朝5時）〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	震度6強	震度6弱	震度5弱	震度5強	震度5弱	—	—	震度7	震度5強	—	震度4以下	震度5強	—	—
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	1,356棟	31棟	3棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	—	—	1,322棟	1棟未満	—	0棟	1棟未満	—	—
	半壊棟数	2,413棟	405棟	114棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	—	—	1,892棟	1棟未満	—	0棟	1棟未満	—	—
火災被害	焼失棟数	11棟	1棟未満	1棟未満	0棟	1棟未満	0棟	—	—	11棟	0棟	—	0棟	0棟	—	—
[建物総棟数]		[1,646,091棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	[118,931棟]	[161,835棟]	[54,888棟]	—	—	[224,059棟]	[31,599棟]	—	[152,607棟]	[175,596棟]	—	—
人的被害	死者数	47人	1人	1人未満	1人未満	1人未満	1人未満	—	—	46人	1人未満	—	0棟	1人未満	—	—
	重軽傷者数	598人	55人	25人	1人未満	1人未満	1人未満	—	—	518人	1人未満	—	0棟	1人未満	—	—
	避難者数	21,658人	6,952人	2,485人	1人未満	2人	1人未満	—	—	12,216人	1人未満	—	0棟	1人未満	—	—
[総人口]		[4,612,717人]	[311,713人]	[2,360,832人]	[224,190人]	[413,968人]	[73,316人]	—	—	[521,087人]	[50,170人]	—	[305,998人]	[351,443人]	—	—
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	31.4km当り1箇所 [総延長39,380km]	22.2km当り1箇所 [総延長5,690km]	203.8km当り1箇所 [総延長8,802km]	※0箇所 [総延長2,386km]	※1箇所未満 [総延長3,726km]	※0箇所 [総延長1,331km]	—	—	5.4km当り1箇所 [総延長5,139km]	※0箇所 [総延長1,102km]	—	※0箇所 [総延長4,120km]	※0箇所 [総延長7,083km]	—	—
	断水人口(1日総)	59,223人	22,023人	8,276人	0人	1人未満	0人	—	—	28,924人	0人	—	0人	0人	—	—
	最大復旧日数	16日	15日	1日	0日	1日	0日	—	—	16日	0日	—	0日	0日	—	—
	下水道被害延長の割合	0.79% [総延長21,359km]	2.26% [総延長2,210km]	0.81% [総延長7,377km]	0.13% [総延長1,203km]	0.44% [総延長2,900km]	0.11% [総延長474km]	—	—	1.53% [総延長2,554km]	0.31% [総延長295km]	—	0.00% [総延長2,084km]	0.21% [総延長2,263km]	—	—
	機能支障人口	33,569人	6,231人	16,998人	258人	1,431人	62人	—	—	7,797人	163人	—	0人	627人	—	—
	最大復旧日数	9日	9日	2日	1日	2日	1日	—	—	4日	2日	—	0日	1日	—	—
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	42.3km当り1箇所 [総延長10,327km]	14.7km当り1箇所 [総延長1,374km]	18.5km当り1箇所 [総延長1,340km]	329.1km当り1箇所 [総延長794km]	48.3km当り1箇所 [総延長1,181km]	※1箇所未満 [総延長497km]	—	—	49.6km当り1箇所 [総延長1,586km]	104.6km当り1箇所 [総延長380km]	—	※0箇所 [総延長1,500km]	109.9km当り1箇所 [総延長1,675km]	—	—
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.18% [総数10,374箇所]	0.27% [総数1,555箇所]	0.00% [総数1,218箇所]	0.00% [総数673箇所]	0.00% [総数809箇所]	0.00% [総数494箇所]	—	—	0.74% [総数1,938箇所]	0.00% [総数547箇所]	—	0.00% [総数1,374箇所]	0.00% [総数1,766箇所]	—	—

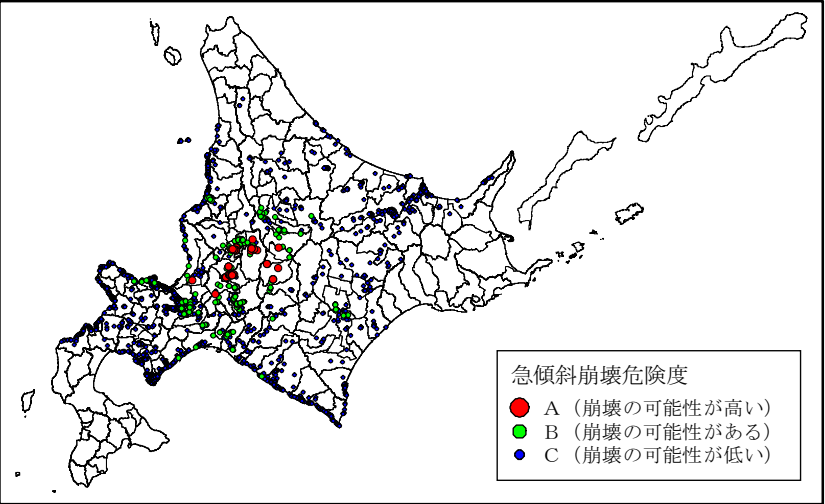
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

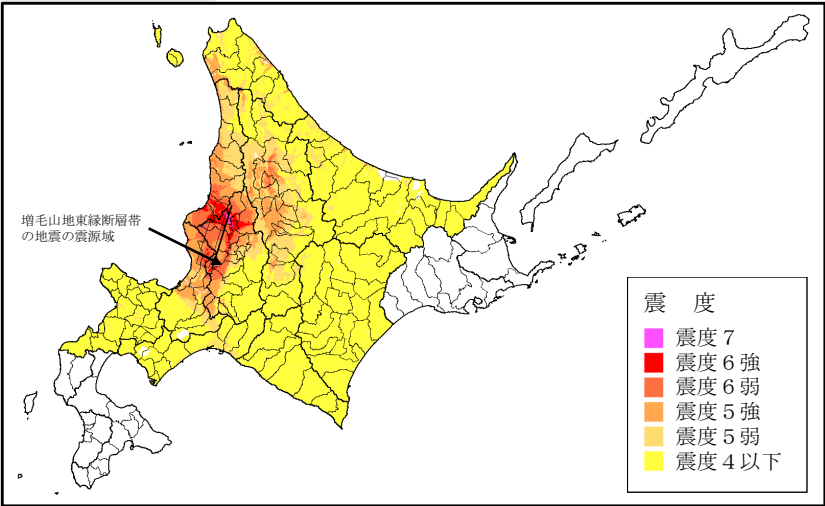
3 地震動による被害想定結果⑨～留萌管内で人的被害が最大となる地震

■増毛山地東縁断層帯（モデル30_2）の地震（Mw7.2）※1

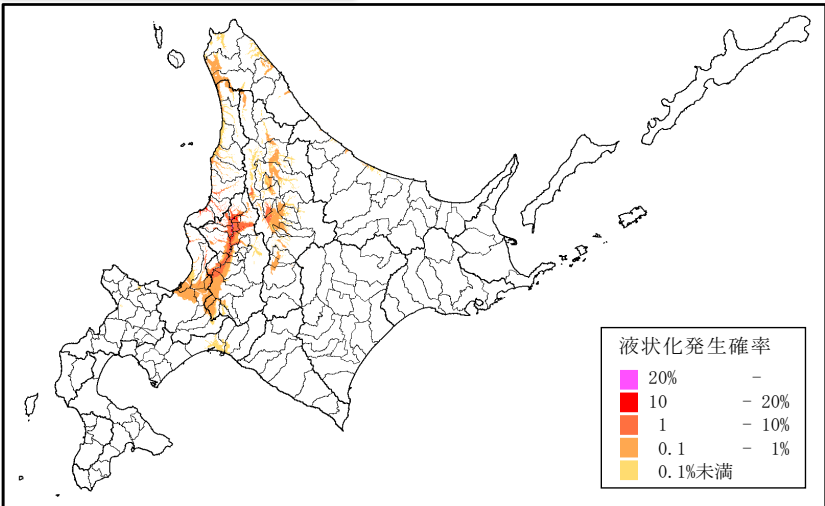
被害の概要（冬期の早朝5時）〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	震度7	震度6強	震度5強	震度5弱	震度5弱	—	—	震度6強	震度7	震度5強	震度5強	震度5強	—	—
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	2,831棟	1,807棟	9棟	1棟未満	1棟未満	0棟	—	—	23棟	991棟	1棟未満	1棟未満	0棟	—	—
	半壊棟数	7,559棟	4,599棟	170棟	1棟	1棟未満	0棟	—	—	482棟	2,306棟	1棟未満	1棟未満	0棟	—	—
火災被害	焼失棟数	11棟	5棟	1棟未満	0棟	0棟	0棟	—	—	1棟未満	6棟	1棟未満	1棟未満	0棟	—	—
[建物総棟数]		[1,683,209棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	[118,931棟]	[161,835棟]	[54,888棟]	—	—	[224,059棟]	[31,599棟]	[37,118棟]	[152,607棟]	[175,596棟]	—	—
人的被害	死者数	49人	24人	1人未満	1人未満	1人未満	0棟	—	—	1人未満	24人	1人未満	1人未満	0棟	—	—
	重軽傷者数	1,130人	594人	32人	1人未満	1人未満	0棟	—	—	79人	424人	1人未満	1人未満	0棟	—	—
	避難者数	48,031人	24,567人	3,381人	3人	1人未満	0棟	—	—	10,230人	9,840人	7人	3人	0棟	—	—
[総人口]		[4,680,870人]	[311,713人]	[2,360,832人]	[224,190人]	[413,968人]	[73,316人]	—	—	[521,087人]	[50,170人]	[68,153人]	[305,998人]	[351,443人]	—	—
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	17.1km当り1箇所 [総延長41,482km]	3.3km当り1箇所 [総延長5,690km]	132.4km当り1箇所 [総延長8,802km]	※0箇所 [総延長2,386km]	※0箇所 [総延長3,726km]	※0箇所 [総延長1,331km]	—	—	25.6km当り1箇所 [総延長5,139km]	2.5km当り1箇所 [総延長1,102km]	1667.2km当り1箇所 [総延長2,103km]	※1箇所未満 [総延長4,120km]	※0箇所 [総延長7,083km]	—	—
	断水人口(1日後)	136,217人	64,299人	9,643人	0人	0人	0人	—	—	36,731人	25,511人	26人	7人	0人	—	—
	最大復旧日数	196日	70日	1日	0日	0日	0日	—	—	6日	196日	1日	1日	0日	—	—
	下水道被害延長の割合	1.01% [総延長21,818km]	3.65% [総延長2,210km]	0.78% [総延長7,377km]	0.22% [総延長1,203km]	0.25% [総延長2,900km]	0.01% [総延長474km]	—	—	1.95% [総延長2,554km]	5.76% [総延長295km]	0.63% [総延長459km]	0.11% [総延長2,084km]	0.00% [総延長2,263km]	—	—
	機能支障人口	40,581人	10,150人	16,462人	422人	801人	6人	—	—	9,406人	2,767人	330人	236人	0人	—	—
	最大復旧日数	23日	14日	2日	1日	1日	1日	—	—	5日	23日	2日	1日	0日	—	—
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	31.9km当り1箇所 [総延長11,042km]	12.5km当り1箇所 [総延長1,374km]	17.1km当り1箇所 [総延長1,340km]	212.6km当り1箇所 [総延長794km]	98.7km当り1箇所 [総延長1,181km]	※1箇所未満 [総延長497km]	—	—	21.2km当り1箇所 [総延長1,586km]	10.3km当り1箇所 [総延長380km]	36.7km当り1箇所 [総延長714km]	132.7km当り1箇所 [総延長1,500km]	※0箇所 [総延長1,675km]	—	—
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.37% [総数10,944箇所]	1.70% [総数1,555箇所]	0.12% [総数1,218箇所]	0.00% [総数673箇所]	0.00% [総数809箇所]	0.00% [総数494箇所]	—	—	0.18% [総数1,938箇所]	1.71% [総数547箇所]	0.00% [総数570箇所]	0.00% [総数1,374箇所]	0.00% [総数1,766箇所]	—	—

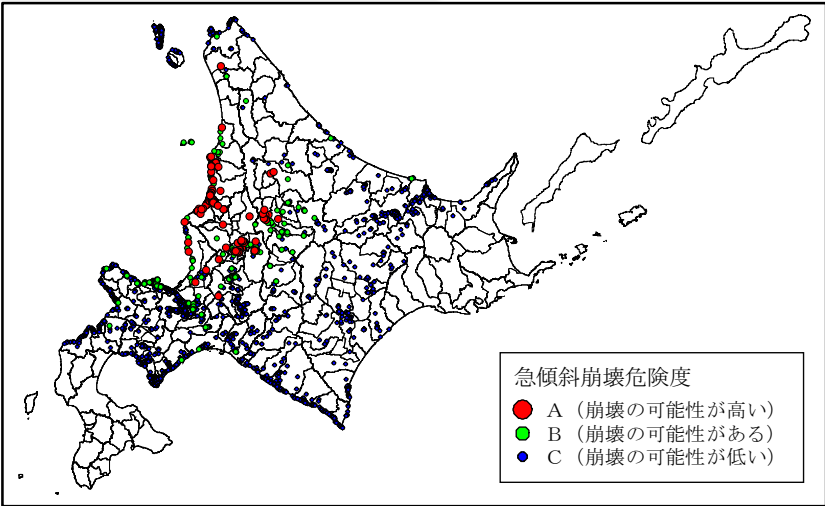
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

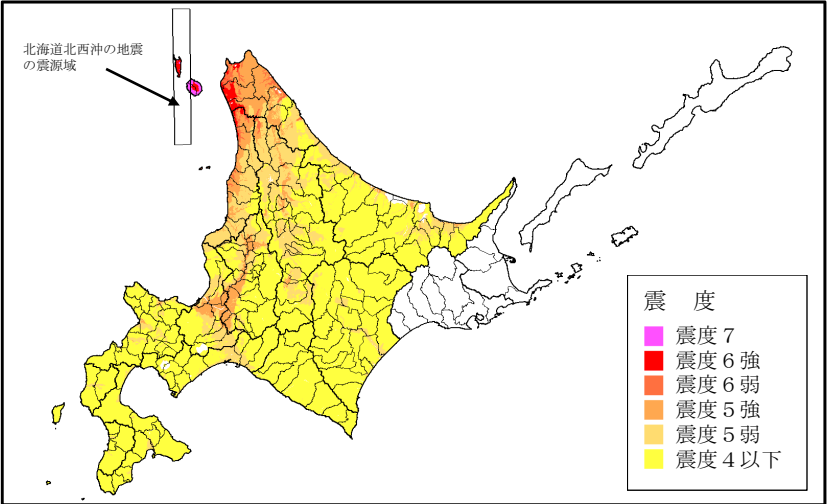
3 地震動による被害想定結果⑩～宗谷管内で人的被害が最大となる地震

■北海道北西沖の地震（モデルNo.2）の地震（Mw7.8）※1

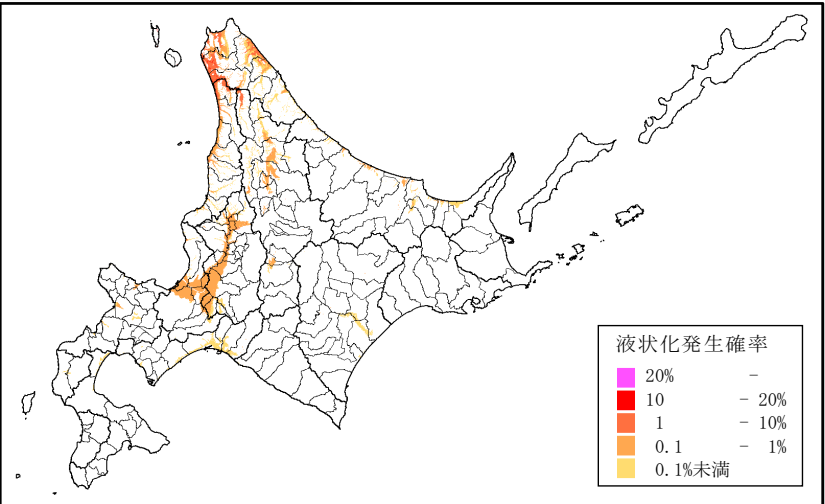
被害の概要（冬期の早朝5時）〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	震度5強	震度5強	震度5強	震度5弱	震度5弱	震度5弱	震度5弱	震度6弱	震度6強	震度7	震度5強	震度5弱	—	—
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	2,358棟	2棟	3棟	4棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	4棟	64棟	2,280棟	1棟未満	1棟未満	—	—
	半壊棟数	2,605棟	50棟	119棟	12棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	65棟	419棟	1,935棟	4棟	1棟未満	—	—
火災被害	焼失棟数	4棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	0棟	0棟	0棟	0棟	1棟未満	1棟未満	4棟	1棟未満	0棟	—	—
[建物総棟数]		[1,900,579棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	[118,931棟]	[161,835棟]	[54,888棟]	[188,265棟]	[29,105棟]	[224,059棟]	[31,599棟]	[37,118棟]	[152,607棟]	[175,596棟]	—	—
人的被害	死者数	106人	1人未満	1人未満	1人未満	1人未満	1人未満	1人未満	1人未満	1人未満	2人	103人	1人未満	1人未満	—	—
	重軽傷者数	381人	5人	33人	5人	1人未満	1人未満	1人未満	1人未満	6人	53人	277人	1人未満	1人未満	—	—
	避難者数	17,792人	845人	2,181人	58人	1人	1人	1人未満	1人未満	997人	2,959人	10,720人	30人	1人未満	—	—
[総人口]		[5,145,990人]	[311,713人]	[2,360,832人]	[224,190人]	[413,968人]	[73,316人]	[424,808人]	[40,312人]	[521,087人]	[50,170人]	[68,153人]	[305,998人]	[351,443人]	—	—
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	29.6km当り1箇所 [総延長45,302km]	129.8km当り1箇所 [総延長5,690km]	323.3km当り1箇所 [総延長8,802km]	1784.9km当り1箇所 [総延長2,386km]	※0箇所 [総延長3,726km]	※0箇所 [総延長1,331km]	※0箇所 [総延長2,864km]	※0箇所 [総延長956km]	105.2km当り1箇所 [総延長5,139km]	4.6km当り1箇所 [総延長1,102km]	1.8km当り1箇所 [総延長2,103km]	3824.4km当り1箇所 [総延長4,120km]	※0箇所 [総延長7,083km]	—	—
	断水人口(1日後)	48,278人	2,725人	8,198人	205人	0人	0人	0人	0人	2,611人	10,812人	23,594人	131人	0人	—	—
	最大復旧日数	354日	2日	1日	1日	0日	0日	0日	0日	3日	97日	354日	1日	0日	—	—
	下水道被害延長の割合	0.78% [総延長24,371km]	1.12% [総延長2,210km]	0.81% [総延長7,377km]	0.55% [総延長1,203km]	0.49% [総延長2,900km]	0.11% [総延長474km]	0.10% [総延長2,336km]	0.35% [総延長217km]	0.98% [総延長2,554km]	3.64% [総延長295km]	7.39% [総延長459km]	0.47% [総延長2,084km]	0.07% [総延長2,263km]	—	—
	機能支障人口	35,698人	3,271人	17,278人	1,097人	1,929人	63人	374人	96人	4,552人	1,405人	4,132人	1,291人	210人	—	—
	最大復旧日数	22日	5日	2日	2日	2日	1日	1日	1日	3日	14日	22日	2日	1日	—	—
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	34.2km当り1箇所 [総延長12,419km]	22.1km当り1箇所 [総延長1,374km]	18.5km当り1箇所 [総延長1,340km]	76.1km当り1箇所 [総延長794km]	56.8km当り1箇所 [総延長1,181km]	※1箇所未満 [総延長497km]	126.7km当り1箇所 [総延長1,030km]	177.7km当り1箇所 [総延長347km]	28.6km当り1箇所 [総延長1,586km]	11.3km当り1箇所 [総延長380km]	11km当り1箇所 [総延長714km]	56.5km当り1箇所 [総延長1,500km]	282.7km当り1箇所 [総延長1,675km]	—	—
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.11% [総数12,065箇所]	0.00% [総数1,555箇所]	0.00% [総数1,218箇所]	0.00% [総数673箇所]	0.00% [総数809箇所]	0.00% [総数494箇所]	0.00% [総数737箇所]	0.00% [総数384箇所]	0.04% [総数1,938箇所]	0.56% [総数547箇所]	1.63% [総数570箇所]	0.00% [総数1,374箇所]	0.00% [総数1,766箇所]	—	—

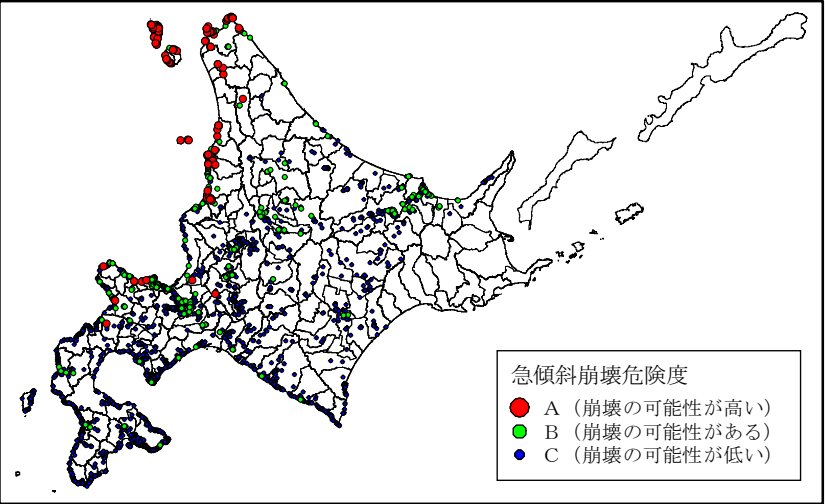
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

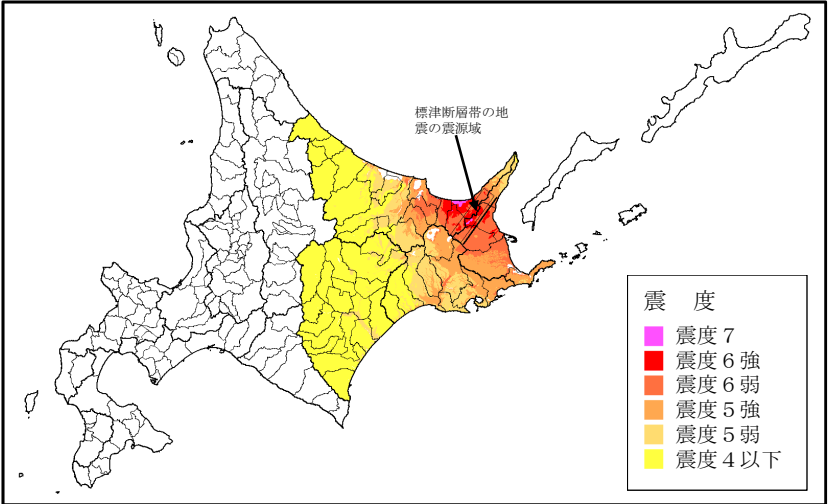
3 地震動による被害想定結果⑪～オホーツク管内で人的被害が最大となる地震

■標津断層帯（モデル30_1）の地震（Mw7.1）※1

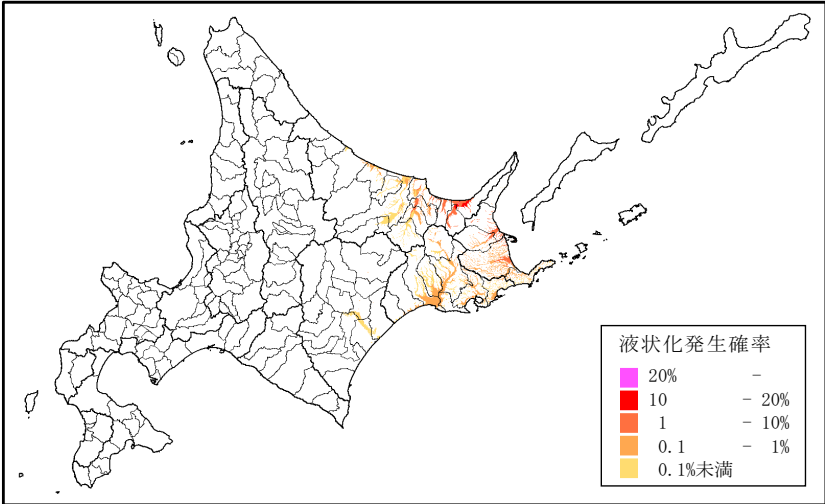
被害の概要（冬期の早朝5時）〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	震度7	震度5強	震度6弱	震度7
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	1,724棟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,656棟	1棟未満	13棟	55棟
	半壊棟数	3,235棟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,713棟	1棟未満	72棟	450棟
火災被害	焼失棟数	8棟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8棟	0棟	1棟未満	1棟未満
[建物総棟数]		[484,000棟]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	[152,607棟]	[175,596棟]	[106,417棟]	[49,380棟]
人的被害	死者数	40人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	36人	1人未満	2人	2人
	重軽傷者数	441人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	365人	1人未満	19人	57人
	避難者数	19,826人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13,257人	2人	992人	5,574人
[総人口]		[986,497人]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	[305,998人]	[351,443人]	[248,209人]	[80,847人]
ライフライン被害	上下道被害箇所数の割合	14.6km当り1箇所 [総延長16,259km]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.9km当り1箇所 [総延長4,120km]	※0箇所 [総延長7,083km]	46.5km当り1箇所 [総延長2,828km]	4.9km当り1箇所 [総延長2,228km]
	断水人口(1日後)	53,111人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	30,685人	0人	4,121人	18,305人
	最大復旧日数	174日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	54日	0日	5日	174日
	下水道被害延長の割合	1.40% [総延長6,213km]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.49% [総延長2,084km]	0.06% [総延長2,263km]	1.36% [総延長1,458km]	3.40% [総延長408km]
	機能支障人口	12,214人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6,950人	175人	2,998人	2,092人
	最大復旧日数	9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8日	1日	4日	9日
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	27km当り1箇所 [総延長4,660km]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21.3km当り1箇所 [総延長1,500km]	184.1km当り1箇所 [総延長1,675km]	17.4km当り1箇所 [総延長964km]	13.8km当り1箇所 [総延長521km]
	15m以上の橋梁の不 通・通行支障箇所数の割合	0.51% [総数4,193箇所]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.15% [総数1,374箇所]	0.00% [総数1,766箇所]	0.02% [総数628箇所]	1.28% [総数425箇所]

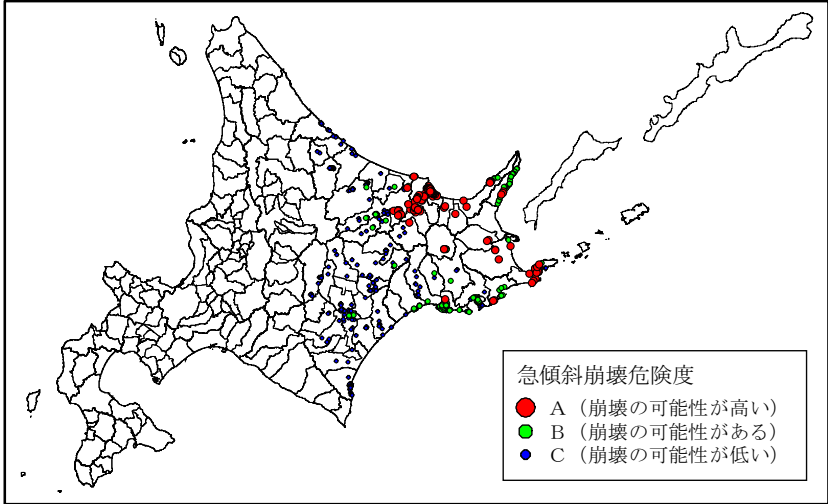
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

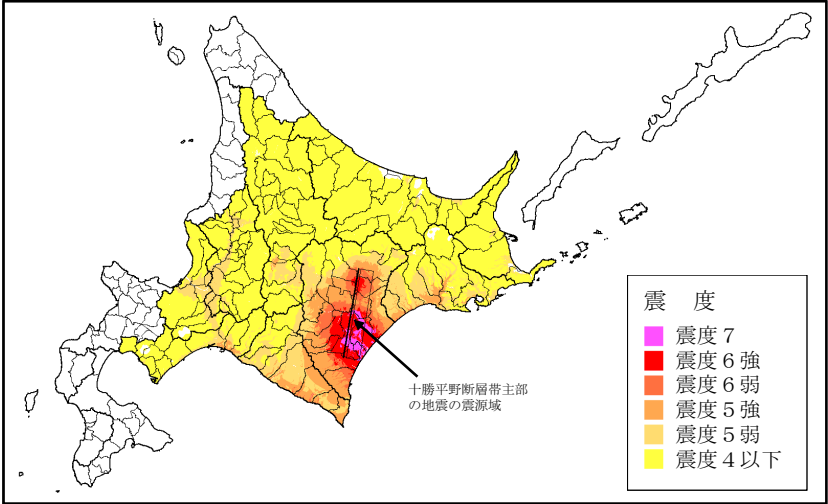
3 地震動による被害想定結果⑫～十勝管内で人的被害が最大となる地震

■十勝平野断層帯主部（モデル45_2）の地震（Mw7.4）※1

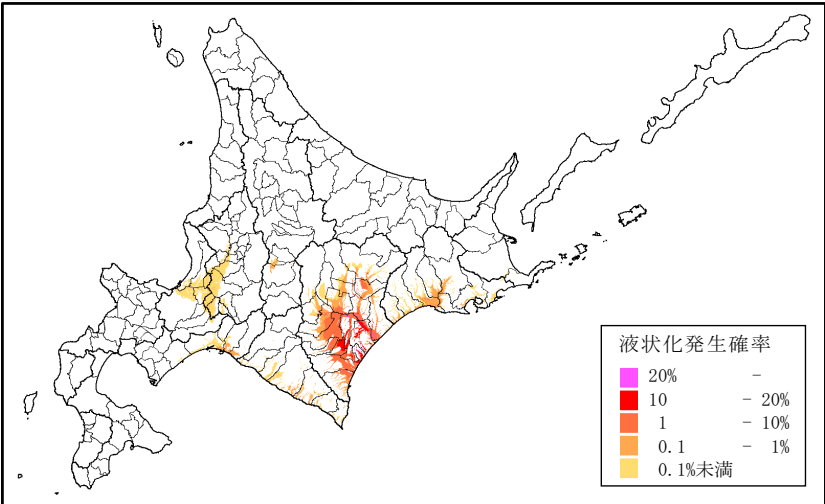
被害の概要（冬期の早朝5時）〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	震度5強	震度5強	—	震度5強	震度6弱	—	—	震度5強	—	—	震度5弱	震度7	震度6弱	震度5弱
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	3,370棟	1棟未満	1棟未満	—	1棟未満	28棟	—	—	1棟未満	—	—	1棟未満	3,336棟	4棟	0棟
	半壊棟数	8,028棟	1棟未満	1棟未満	—	1棟	108棟	—	—	1棟未満	—	—	1棟未満	7,888棟	30棟	0棟
火災被害	焼失棟数	18棟	1棟未満	1棟未満	—	1棟未満	1棟未満	—	—	1棟未満	—	—	0棟	18棟	1棟未満	0棟
[建物総棟数]		[1,651,358棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	—	[161,835棟]	[54,888棟]	—	—	[224,059棟]	—	—	[152,607棟]	[175,596棟]	[106,417棟]	[49,380棟]
人的被害	死者数	73人	1人未満	1人未満	—	1人未満	5人	—	—	1人未満	—	—	1人未満	68人	1人未満	0棟
	重軽傷者数	1,439人	1人未満	1人未満	—	1人未満	41人	—	—	1人未満	—	—	1人未満	1,390人	7人	0棟
	避難者数	62,952人	1人未満	4人	—	8人	1,596人	—	—	4人	—	—	1人未満	60,670人	669人	0棟
[総人口]		[4,667,413人]	[311,713人]	[2,360,832人]	—	[413,968人]	[73,316人]	—	—	[521,087人]	—	—	[305,998人]	[351,443人]	[248,209人]	[80,847人]
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	7.7km当り1箇所 [総延長40,947km]	※1箇所未満 [総延長5,690km]	※0箇所 [総延長8,802km]	—	※1箇所未満 [総延長3,726km]	31.2km当り1箇所 [総延長1,331km]	—	—	※1箇所未満 [総延長5,139km]	—	—	※0箇所 [総延長4,120km]	1.3km当り1箇所 [総延長7,083km]	243.4km当り1箇所 [総延長2,828km]	※0箇所 [総延長2,228km]
	断水人口(1日後)	173,299人	1人未満	0人	—	34人	4,721人	—	—	20人	—	—	0人	166,111人	2,414人	0人
	最大復旧日数	341日	1日	0日	—	1日	10日	—	—	1日	—	—	0日	341日	1日	0日
	下水道被害延長の割合	0.84% [総延長21,728km]	0.41% [総延長2,210km]	0.32% [総延長7,377km]	—	0.40% [総延長2,900km]	2.08% [総延長474km]	—	—	0.07% [総延長2,554km]	—	—	0.04% [総延長2,084km]	4.84% [総延長2,263km]	1.14% [総延長1,458km]	0.03% [総延長408km]
	機能支障人口	27,658人	1,209人	6,042人	—	1,439人	1,211人	—	—	342人	—	—	107人	14,539人	2,748人	21人
	最大復旧日数	16日	2日	1日	—	2日	8日	—	—	1日	—	—	1日	16日	3日	1日
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	37.4km当り1箇所 [総延長10,638km]	56km当り1箇所 [総延長1,374km]	44km当り1箇所 [総延長1,340km]	—	54.7km当り1箇所 [総延長1,181km]	21km当り1箇所 [総延長497km]	—	—	389.5km当り1箇所 [総延長1,586km]	—	—	387.3km当り1箇所 [総延長1,500km]	11.9km当り1箇所 [総延長1,675km]	28.6km当り1箇所 [総延長964km]	264.9km当り1箇所 [総延長521km]
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.62% [総数10,207箇所]	0.00% [総数1,555箇所]	0.00% [総数1,218箇所]	—	0.00% [総数809箇所]	0.11% [総数494箇所]	—	—	0.00% [総数1,938箇所]	—	—	0.00% [総数1,374箇所]	3.54% [総数1,766箇所]	0.02% [総数628箇所]	0.00% [総数425箇所]

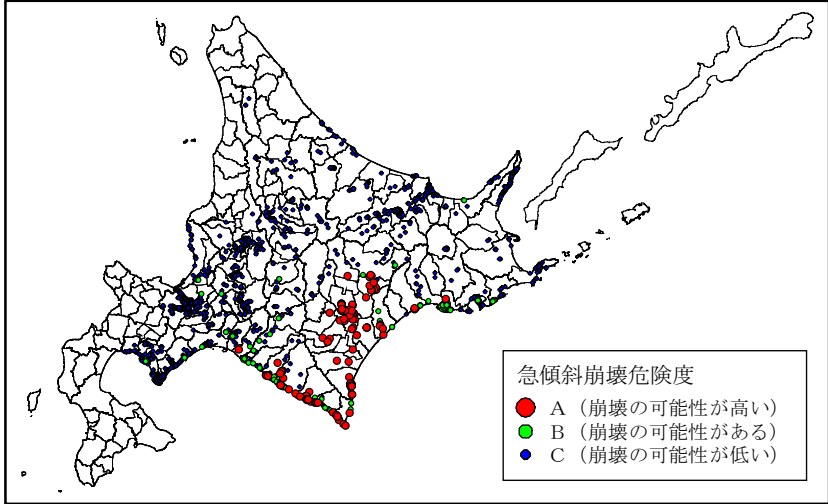
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

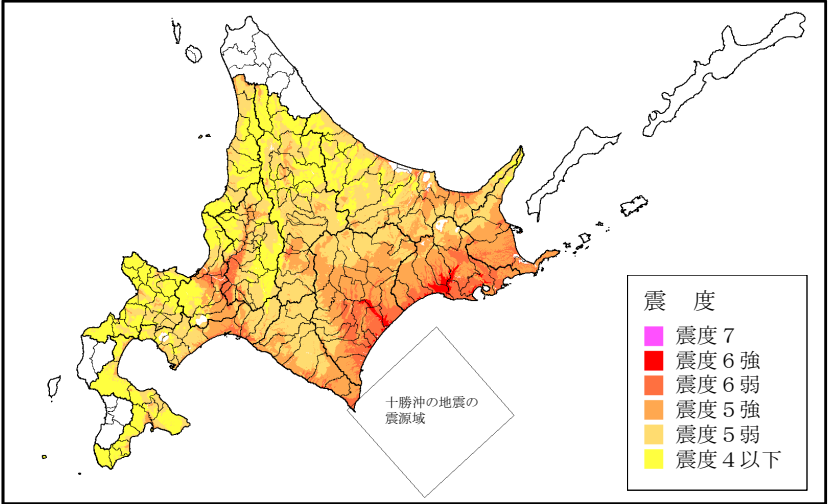
3 地震動による被害想定結果⑬～釧路・日高管内で人的被害が最大となる地震

■十勝沖の地震（Mw8.2）※1

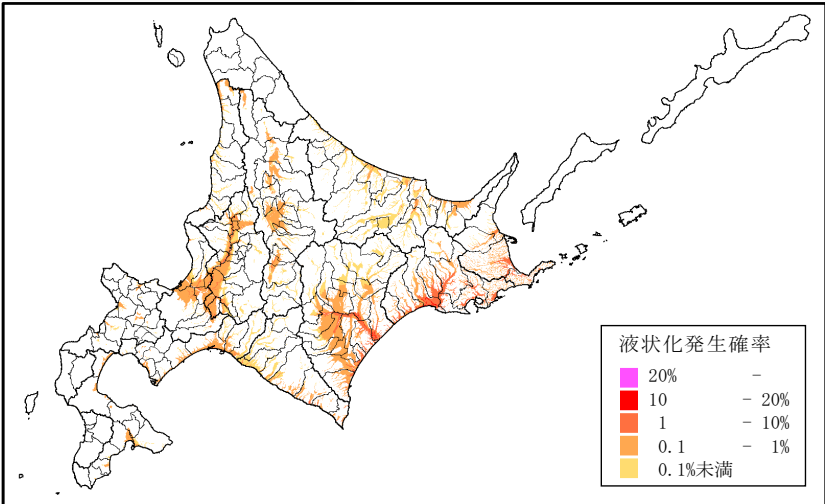
被害の概要（冬期の早朝5時）〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度6強(最大)	震度6弱	震度6弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度5強	—	震度6弱	震度5強	—	震度6弱	震度6強	震度6強	震度6弱
液化化危険度		下図(液化化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	1,063棟	21棟	43棟	6棟	21棟	63棟	10棟	—	5棟	1棟未満	—	18棟	271棟	589棟	17棟
	半壊棟数	6,499棟	334棟	848棟	25棟	183棟	274棟	42棟	—	78棟	5棟	—	183棟	1,674棟	2,666棟	187棟
火災被害	焼失棟数	3棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	1棟未満	—	1棟未満	1棟未満	—	1棟未満	1棟未満	2棟	1棟未満
[建物総棟数]		[1,990,153棟]	[162,359棟]	[564,217棟]	[118,931棟]	[161,835棟]	[54,888棟]	[188,265棟]	—	[224,059棟]	[31,599棟]	—	[152,607棟]	[175,596棟]	[106,417棟]	[49,380棟]
人的被害	死者数	44人	1人未満	2人	1人未満	2人	9人	1人	—	1人未満	1人未満	—	2人	5人	20人	2人
	重軽傷者数	1,418人	40人	221人	9人	58人	84人	13人	—	15人	1人	—	31人	237人	684人	27人
	避難者数	93,374人	6,399人	19,263人	236人	5,250人	4,004人	708人	—	1,829人	79人	—	2,923人	22,004人	27,920人	2,759人
[総人口]		[5,366,581人]	[311,713人]	[2,360,832人]	[224,190人]	[413,968人]	[73,316人]	[424,808人]	—	[521,087人]	[50,170人]	—	[305,998人]	[351,443人]	[248,209人]	[80,847人]
ライフライン被害	上水道被害箇所数の割合	15.9km当り1箇所 [総延長47,299km]	22.7km当り1箇所 [総延長5,690km]	44.6km当り1箇所 [総延長8,802km]	380.4km当り1箇所 [総延長2,386km]	29.6km当り1箇所 [総延長3,726km]	9.7km当り1箇所 [総延長1,331km]	182.6km当り1箇所 [総延長2,864km]	—	83.3km当り1箇所 [総延長5,139km]	226.2km当り1箇所 [総延長1,102km]	—	50.2km当り1箇所 [総延長4,120km]	5.6km当り1箇所 [総延長7,083km]	4.3km当り1箇所 [総延長2,828km]	11.8km当り1箇所 [総延長2,228km]
	断水人口(1日後)	308,225人	21,472人	66,804人	1,094人	19,401人	13,539人	2,293人	—	6,751人	364人	—	9,246人	76,775人	80,237人	10,247人
	最大復旧日数	108日	13日	2日	1日	5日	30日	2日	—	2日	2日	—	6日	108日	60日	87日
	下水道被害延長の割合	2.02% [総延長25,562km]	2.03% [総延長2,210km]	1.60% [総延長7,377km]	0.86% [総延長1,203km]	2.35% [総延長2,900km]	3.30% [総延長474km]	1.51% [総延長2,336km]	—	1.16% [総延長2,554km]	1.51% [総延長295km]	—	1.58% [総延長2,084km]	2.71% [総延長2,263km]	6.00% [総延長1,458km]	2.32% [総延長408km]
	機能支障人口	90,543人	5,948人	32,399人	1,653人	8,744人	1,886人	5,618人	—	5,382人	636人	—	4,289人	8,191人	14,378人	1,420人
	最大復旧日数	15日	8日	3日	3日	7日	12日	5日	—	3日	6日	—	5日	9日	15日	6日
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	16.2km当り1箇所 [総延長12,843km]	15.3km当り1箇所 [総延長1,374km]	13.4km当り1箇所 [総延長1,340km]	33.1km当り1箇所 [総延長794km]	14.8km当り1箇所 [総延長1,181km]	14.3km当り1箇所 [総延長497km]	24.2km当り1箇所 [総延長1,030km]	—	23.8km当り1箇所 [総延長1,586km]	18.7km当り1箇所 [総延長380km]	—	18km当り1箇所 [総延長1,500km]	13.2km当り1箇所 [総延長1,675km]	10.5km当り1箇所 [総延長964km]	16.1km当り1箇所 [総延長521km]
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.43% [総数12,164箇所]	0.23% [総数1,555箇所]	0.29% [総数1,218箇所]	0.00% [総数673箇所]	0.19% [総数809箇所]	0.51% [総数494箇所]	0.00% [総数737箇所]	—	0.05% [総数1,938箇所]	0.00% [総数547箇所]	—	0.10% [総数1,374箇所]	1.03% [総数1,766箇所]	2.82% [総数628箇所]	0.62% [総数425箇所]

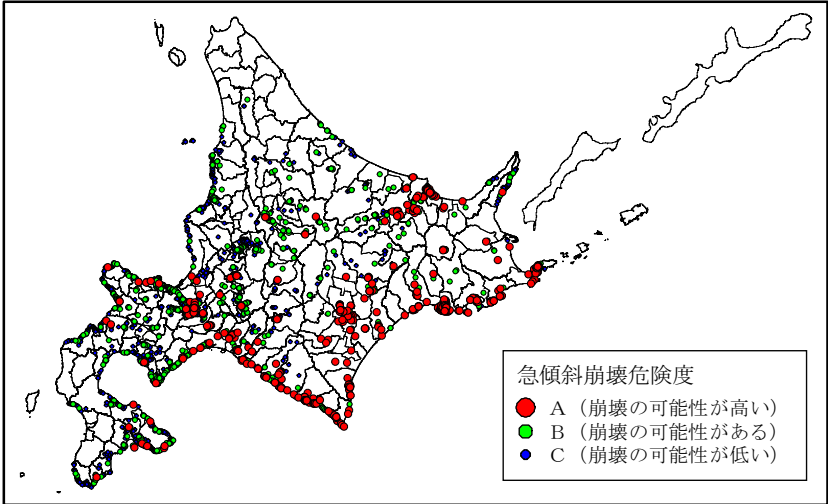
震度分布



液化化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。

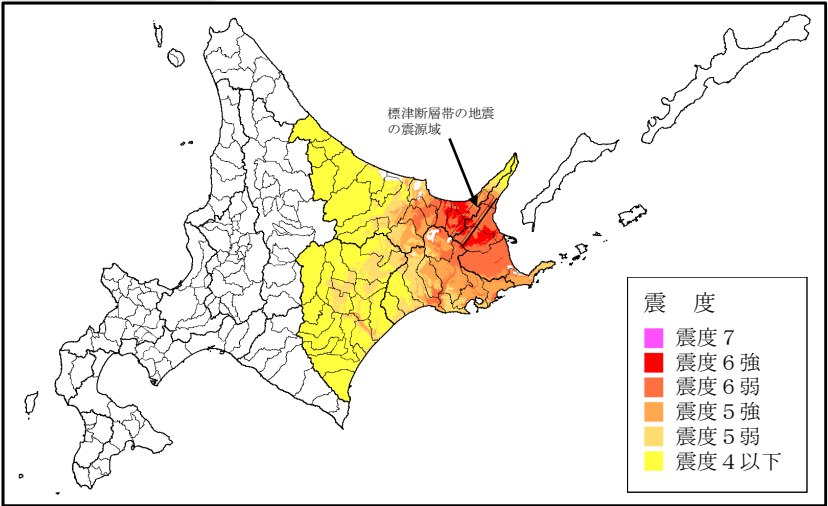
3 地震動による被害想定結果⑭～根室管内で人的被害が最大となる地震

■標津断層帯（モデル45_5）の地震（Mw7.1）※1

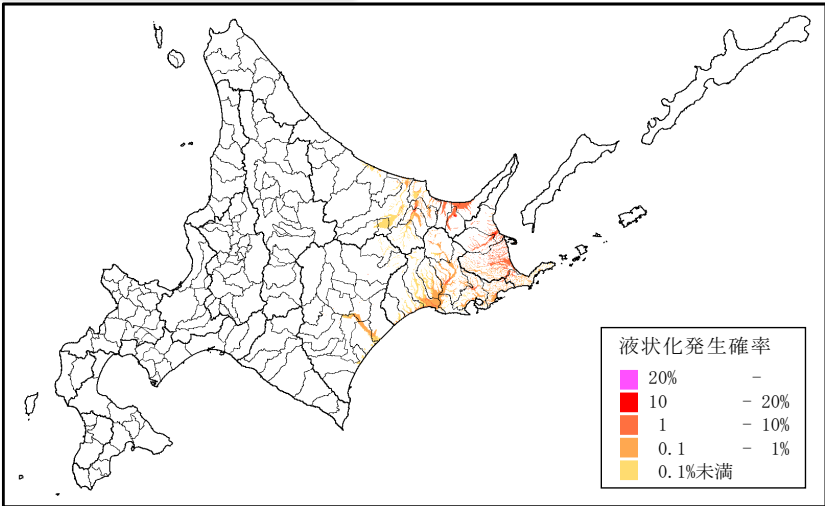
被害の概要（冬期の早朝5時）〈北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所・地質研究所作成〉

被害想定項目		全 道	空 知	石 狩	後 志	胆 振	日 高	渡 島	檜 山	上 川	留 萌	宗 谷	オホーツク	十 勝	釧 路	根 室
地震動		震度7(最大)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	震度7	震度5強	震度6強	震度6強
液状化危険度		下図(液状化発生確率分布)による														
急傾斜地崩壊危険度		下図(急傾斜地崩壊危険度分布)による														
建物被害	全壊棟数	894棟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	662棟	1棟未満	18棟	213棟
	半壊棟数	3,184棟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,898棟	1棟	173棟	1,112棟
火災被害	焼失棟数	4棟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3棟	1棟未満	1棟未満	1棟未満
[建物総棟数]		[484,000棟]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	[152,607棟]	[175,596棟]	[106,417棟]	[49,380棟]
人的被害	死者数	18人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13人	1人未満	1人未満	5人
	重軽傷者数	485人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	289人	1人未満	26人	170人
	避難者数	21,473人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9,349人	3人	3,140人	8,981人
[総人口]		[986,497人]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	[305,998人]	[351,443人]	[248,209人]	[80,847人]
ライフライン被害	上下道被害箇所数の割合	10.8km当り1箇所 [総延長16,259km]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10.5km当り1箇所 [総延長4,120km]	※1箇所未満 [総延長7,083km]	14.9km当り1箇所 [総延長2,828km]	2.4km当り1箇所 [総延長2,228km]
	断水人口(1日後)	62,560人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	23,093人	13人	11,755人	27,699人
	最大復旧日数	329日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	39日	1日	15日	329日
	下水道被害延長の割合	1.53% [総延長6,213km]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.72% [総延長2,084km]	0.29% [総延長2,263km]	2.15% [総延長1,458km]	5.18% [総延長408km]
	機能支障人口	13,634人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,689人	903人	4,848人	3,194人
	最大復旧日数	14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6日	1日	6日	14日
交通施設被害	主要道路被害箇所数の割合	23.8km当り1箇所 [総延長4,660km]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24.7km当り1箇所 [総延長1,500km]	59.4km当り1箇所 [総延長1,675km]	14.1km当り1箇所 [総延長964km]	13.4km当り1箇所 [総延長521km]
	15m以上の橋梁の不通・通行支障箇所数の割合	0.68% [総数4,193箇所]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.91% [総数1,374箇所]	0.00% [総数1,766箇所]	0.33% [総数628箇所]	3.29% [総数425箇所]

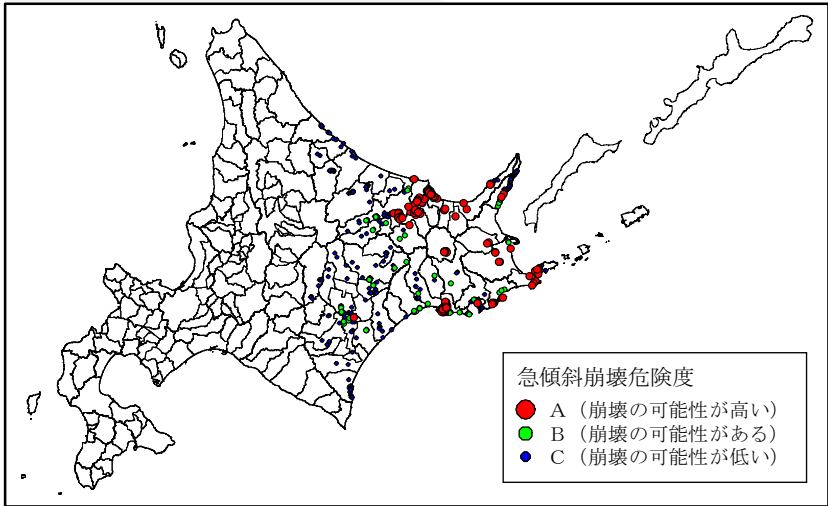
震度分布



液状化発生確率分布



急傾斜地崩壊危険度分布



注：この結果は、中央防災会議などの被害想定手法（過去の地震被害を基に設定した被害発生確率等による）により算定した概数であり、具体的な被害発生箇所を特定するものではありません。
※ 1 断層モデルは、断層の長さ、深さ、マグニチュード、傾き、破壊パターン等で設定しています。
※ 2 概略計算の結果からほとんど被害の想定されない地域は、計算対象外（表中は“—”）としています。
※ 2 端数処理の関係で表中の数値と合計は合わない場合があります。
※ 3 建物・人口の総数、上下水道・道路の総延長、橋梁総数は、市町村などからの提供データに基づく合計値です。